

575
130

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

始



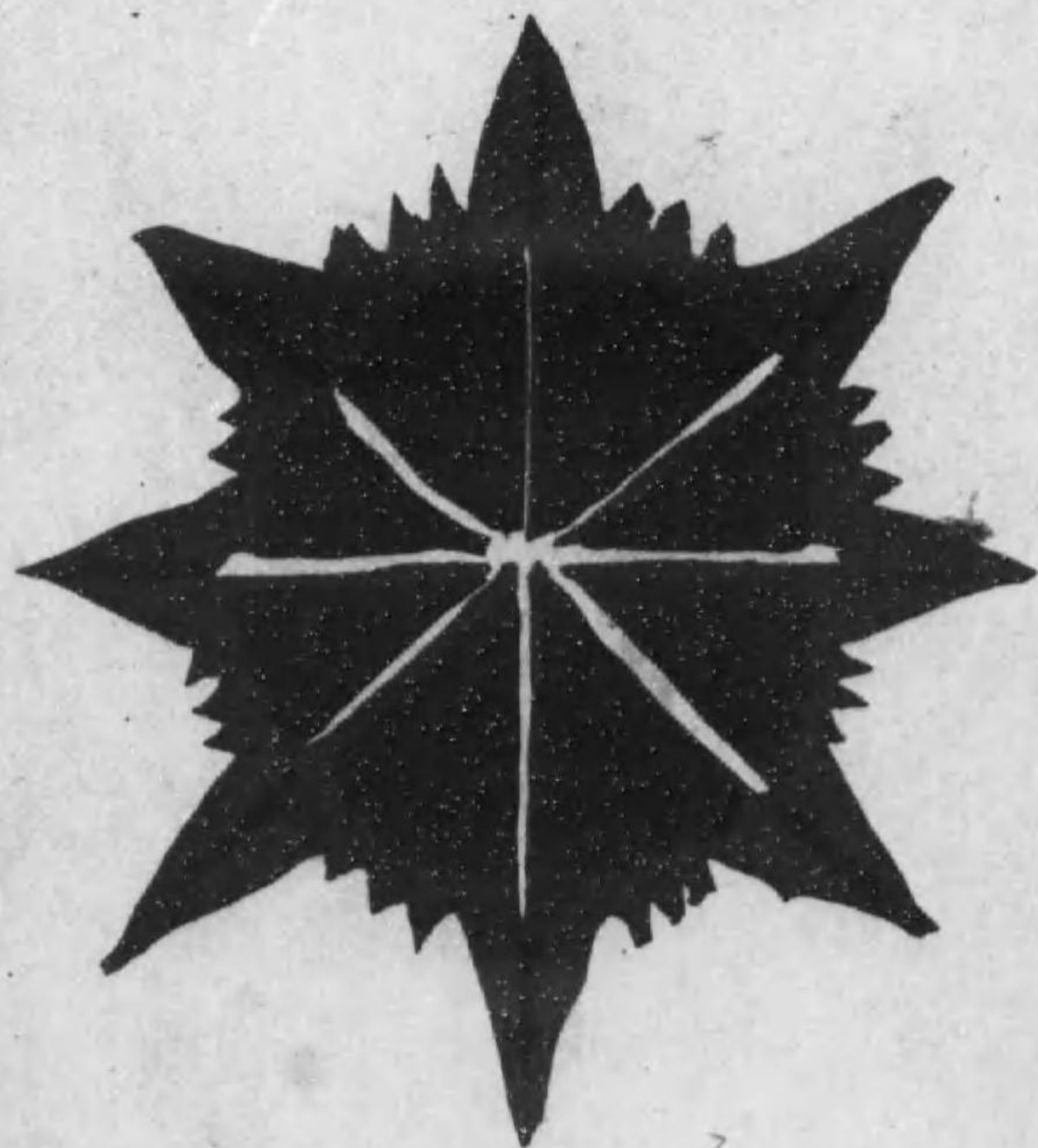
選新學文外海

編六第

ンーカンリ・ムハラブエ

作ターオウクンリド

譯策有山横



版出社潮新



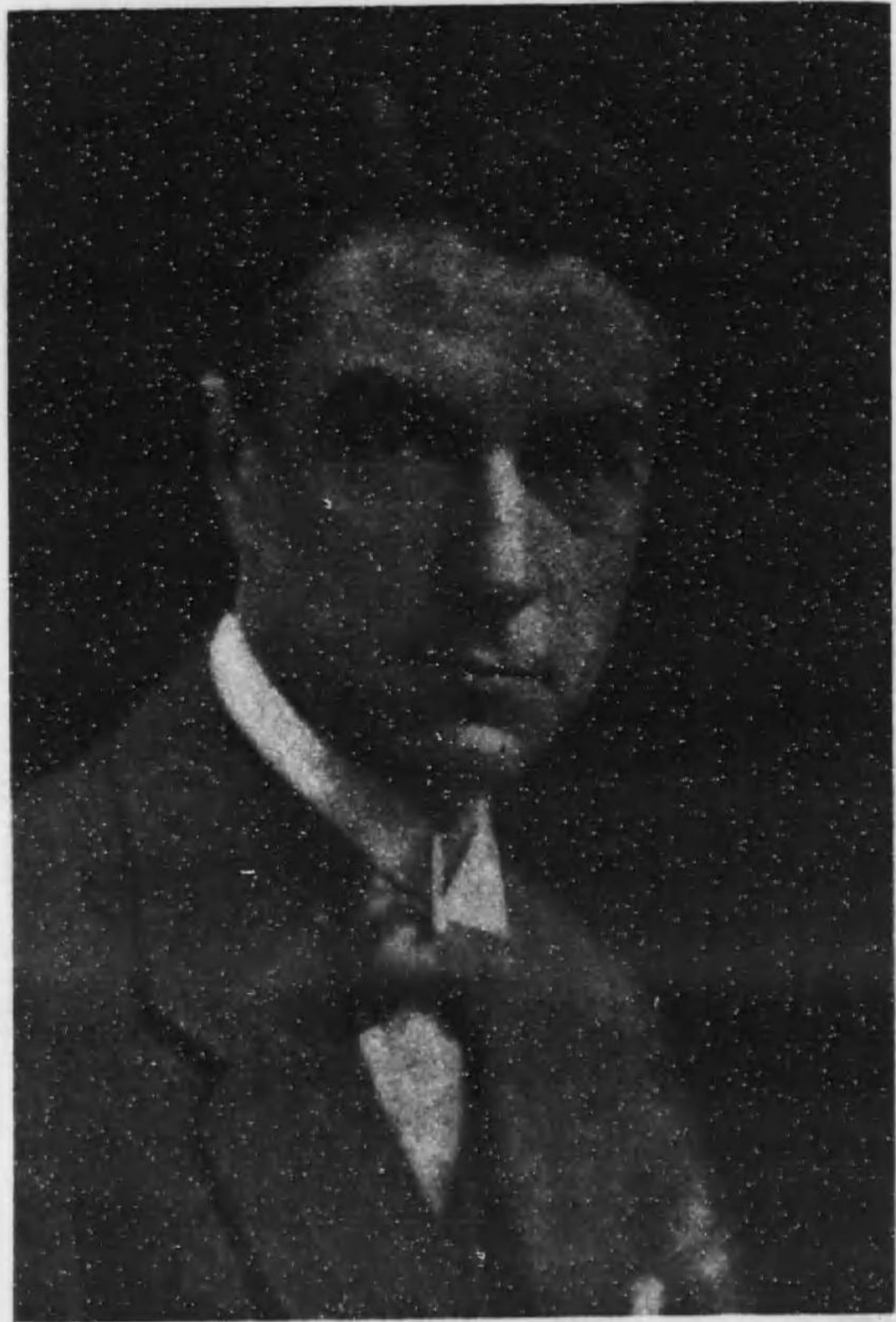
エブラ
ハム・リンカーン

海外文學新選(6)

英吉利文學

ジョン・ドリンクウォーター作
横山有策譯

大正
13. 5. 22
内交



John Drinkwater

はしがき

「英國の劇は傳記式になることに由つて、技巧ばかりの筋立ての單調から脱却し、人生の豊富な多種多様な姿にはいるかも知れない」と老ボラアド教授は記したが、此希望の實現さるゝや否やは、なほ假すに數年を以てせねばならぬ。兎に角ドリクウォータア氏の此劇が一九一八年に書かれ、同じ年に非常な成功を以て上演せられて以來、此種の試みは一種の流行をなすほどである。同氏みづからも『クコムウェル』を書き、『メリイ・スチュワート』を作り、最近には、此劇の姉妹篇とでもいへる南軍總司令官を主人公とした『ロバート・リイ』を出してゐる。劇の動作は緊密な因果關係で結ばれ、首尾全く一貫せる有機的連絡がなくてはかなはぬといふ在來の作劇法からいへば、此傳記式、挿話式の劇は異端である、反抗者である、變體である。

同じく正規劇の反抗者であり、異端であるものに、誰も知る如くやはり近代の產物なる無主人公の劇がある。此種の劇では全篇を貫くものは空氣である。之に反し、此挿話式傳記劇はいはゞ主人公一人舞臺の劇である。他のすべての人物は此中心人物を明白に浮彫りにする光であり陰であるに過ぎない。そして之を統一するものは其主人公の魂である。多くの事件を乗越え乗越えて、戦ひ、忍び、望み、憎み、經驗し、發達し、向上する魂である。一種の性格劇としては浪漫劇を思ひ、生活の深い眞

編纂者

有島生馬	伊
千葉勉	英
笠井鎮夫	西葡
片上伸	露
ルビエンスキイ	波
永田寛定	西
田代光雄	獨
山岸光宣	獨
山内義雄	佛
横山有策	英
米川正夫	露
吉江喬松	佛

A B C 順

實を擱まねばやまぬ點では現實主義の最も正しく又最もよきものを想はしめる。劇中二人の史家に由つて述べられる詩は、人間こそその事件の主人である、美は徳を加へて初めて力強いとなす作者の思想を最も美しく——時にあまりに概念的に過ぐることもあるが——表はし、作者が推奨するメースフィールド氏の系統をひき、確實に現代思潮の一端を領有してゐる。若しそれ此聖人政治家リンカーンその人の描寫については、あるひは解釋を異にする人の必ずしもなきを保證しないが、兎に角一貫した力強い印象を此劇の主人公に拒むことはできぬであらう。殊に第五景は最も優れた神興の頂點を示して愉快である。

ジョン・ドリンクウォーター氏は一八八二年六月一日の生誕、一九〇三年出版の『詩集』を手初に多くの詩を公にしてゐるが、一九〇八年頃から非常な進歩を示し、理知的な瞑想的な詩人として今や青年詩人中屈指の列には入つてゐる。劇方面では氏は友人と共に『巡禮劇團』を創立したが、次第に發達して『バアミンガム名作交替上演座』となつたので、目下は其座の支配人でもあり上演者でもある。氏の作は殆ど皆此座のためのもので、此劇以前の作には韻文一幕物『コフエチュア』(一九一〇)、韻文三幕物『叛虐』(一九一四)、『暴風雨』(一九一五)、『靜寂の神』(一九一六)、『エキスはオーに等し』(一九一七)、『質物』(一九一七)がある。其うへ氏は批評家としても一流の犀利な筆をもち、多方面でもあり、精力絶倫でもある。(譯者識)

エブラハム・リンカーン

ジョン・ドリンクウォーター原作
横山有策譯

原著者「覚え書」

エブラハム・リンカーンの如き、かくも廣き聲名を有する最近の人物を劇の目的に用ふるに際し、一二の管見をわが讀者並に批評家に送るは、至當の事であると感ずる。

第一、私の目的は歴史家のそれではなくて、劇作者のそれである。わが主人公の歴史的記述に至つては、既に忠實にもなされたる幾巻の書冊がある。就中、英國に於ては、チャーソウド卿のモノグラフの如き、リンカーンの経歴と性格を解剖して餘蘊なく、私の見るところを以てすれば、洵に史家の著作の好模範である。私の此劇も、その材料を此書に仰ぐの多きを感謝せねばならぬ。しかし、私は一面史實に反く何事をもなさなかつたつもりであるが、同時に自由に事件に望遠鏡をさし向け、その進行に向つて敢て創意を加へ、かくして私の題目の劇的意義を形成するの必要に應ずることにした。なほ一言附加すべきは、架空の人物バーネット・フックを造つて、リンカーン内閣の史實上の閣員中に列せしめ、由て以て大統領に敵對する二三の勢力を具體化せしめる目的に供したることである。これは劇的に緊要な事であつた。そして此目的に向つて一人を虚構することは、知名の一人物に被らすに、なほ問題の餘地ある不快の性質を以てするよりも、更によきことであると私は考へたのであつた。

第二、重ねていふ、私の目的は劇作者のそれでは、政治哲學者のそれではない。南北分離の論争は頗る錯誤した問題で、之については、高尚にして且つ寛大な意見も、なほ且つ衝突を免れぬかも知れぬのである。しかし、私が偶々リンカーンの政策並に判断に對し、個人的の同情を有つと有たぬとは畢竟問題ではない。私の關心するところは、彼の性格の深刻にも劇的な興味である、戦争を氣高く又想像力を以て取扱つた一人の刺戟的な實例である。

最後に、私は英國人である。リンカーンを生み出した此偉大な國の市民ではない。故に、私は一個の英國人として筆を執り、私には何の經驗もない『地方色』に成功せんとしたり、或は私の育てられなかつた國の慣用語を用ひて話したりする企ては一切試みなかつた。若し之を試みんか、此劇のために或は作らるゝ幸運を擔ふべきわが米國の友人諸君の必ず認容せらるゝならんが如く、それこそ大なる題目をば浮薄に取扱ふの咎を受けたことであらう。

一九一八年七八月

フアー・オークリッヂにて
ジュニー・デー

人物

第一史家
第二史家



ストーン君
カフニ君
スウザン
リンカーン夫人
エブラハムリンカーン
ウイルヤム・タツカー
ヘンリ・ハインド
エブラハムリンカーン

農家
商店主
女中
實業家
辯護士

エライヤス・プライス
ゼームス・マキントッシュ
ライオン・ライオン
共和黨新聞主筆

第二景

ウイルヤム・エチ・シワード
ジョンソン・ホワイト
キャレブ・ジェニングス
ホーキンズ
リンカーン
南部聯邦十一州
代表委員
書記

ジョン・ヘイ

秘書官

第二書記官

使者

第三書記官

サアモン・ピイ・チェース

大蔵大臣

モンゴメリイ・ブレイヤ

通信總監

シモン・キヤメロン

内閣員

キヤレブ・スミス

バーネット・フック

ギデオン・ウエルズ

第三景

リンカーン夫人

スウザン

ゴライヤス・プロウ夫人

六

アザリ夫人

リンカーン

ウイルヤム・カスチス

第四景

ウイルヤム・エチ・シワード

陸軍大臣

エドウィン・エム・スタントン

モンゴメリイ・ブレイヤ

ギデオンのウエルズ

バーネット・フック

サアモン・ピイ・チェース

書記官

ヘイ

第五景

將軍グラント

北軍總司令官

大尉マリンス

その副官

デニス

當番下士

第二當番下士

リンカーン

ヘイ

一青年士官

ウイルヤム・スコット

兵士

護衛兵

大將ミイド

北軍の將軍

エブラハム・リンカーン

大尉ソーン

その副官

將軍ロバート・イ・リイ

南軍總司令官

其副官

第六景

リンカーン

スタントン

リンカーン夫人

婦人並に紳士大勢

士官

ジョン・ウルクス・ブリス

刺客

スウザン

醫師

七

二人の史家（同聲に述べる）

同族の方々、

これより御覽ぜらるゝ吾等が舞臺、
物真似のしぐさにて

一人の性格の形取らるゝ次第。

これぞ洵に不思議、いつにても、どこにても――

かの事件てふ漢たる有爲轉變、

或は坑におち、あるは尖頭によづるの變化、

その不思議なるにはあらず、

すべての境涯を徘徊し、

意氣衰へもせず歸港すなる

人の意慾と勇氣、

それぞ洵に不思議。

是等の事件、

狂喜すべきも、はた、懊惱すべきもあらん、

されど是等は、吾等の實體なる純潔さ、又は憐むべき湮滅、

それを立證するための畢竟代理者たらんのみ。

美と平和の、吾等が心を魅する時、

そは、そが人々のもつ美と平和に

觸るるがまゝのものに外ならず、

なほ又吾等の日果て

宣告の最後のことば、下りくるの外なき時、

此宣告たるや

その外衣カウチによりて記憶さるべき、
いかなるものにもあらず、
之に當面する人の態度ぞ、すべてなる。

されば、同族の方々、
吾等之を演出するも
かのまことに逸去しやすき
街キルビヤ耀なる事件の故にあらず、
吾等が物真似のしぐさにて
永遠に生きんとすなる人の魂の
形取らるゝの次第
それを御覽ぜられよとのみ。

第一の史家

會て危機來り、
わがイギリスぶりに、
自由の日の亂されし時、
而して、一人ヒトのよく之に比敵し、
治むる道に名ある者なかりける時、
只ひとりハンチンドンにて
事のなりゆきを見てありし者の
不屈不撓コウカクの心にぞ、召ヨシは來れる、
彼は行きぬ、
暴虐はいましめられぬ、
かくてぞクロムウエルは
彼れの事件のあるじなりける。

第二の史家

又かの巡禮船メイフラワーが
航路みなちの末に休みせし國に

困惑全土の人心を捉へ

選ばれて思ひはかれる人のうちにも

一人いちじんよく迷へる民衆の思想おもひを檻かぎに連れ歸り、

自由と法則の二つの名を

再び一つに合せ得んものなかりし。

其時、静かなるイリノイ州に世に知られず

五十の歳を過ごしける人より

送られし一語、今も太西洋に響く、

かくてぞリンカーンは

彼れの事件のあるじなる。

兩人同聲

かくの如く思はざりし魂は醒めざむ、

思はざりし境涯の

生れ來るにつれ。

しかうして時は

凛々しかりし天變地異をも、只一代にて、

ゆくりなく爐邊に

語り繼ぐ地上の一小話と化し了る。

されど、その抱きし情熱、

性格の誇かにも無敵の發動、

それぞ——それぞ——とはに残る。

第一景

イリノイ州スプリングフィールドなるエブラハム・リンカーン家の客室、一八六〇年の早き頃。農業家ストーン君、商店主カフニ君、いづれも五十歳から六十歳までの年輩、初春の煖爐を前にして坐つてゐる。薄暮だが、窓掛は曳いてない。兩人は黙つて煙草を吹かしてゐる。

ストーン君 「暫く間を置いて」 エブラハム。好い名ぢや、男にもつてこいぢや、何しろ。

カフニ君 全く。その通り。

ストーン君 「又間を置いて」 エブラハム・リンカーン。俺は此人を四十年も知つてゐる。一度だつて曲つたことをしたためしはねえ。兎に角。

彼は回想に耽つたやうに爐格にパイプをはたく。また間。女中のスウザン入る。忙しく蠟燭を點火し窓掛を曳く。

スウザン 奥さまが只今お歸りでした。すぐ参りますからと仰つてでした。

カフニ君 有難う。

ストーン君 リンカーンさんはまだどね、大方？

スウザン まだです、ストーンさん。ちきでせうよ、大勢旦那方が見えるのですから。

ストーン君 どうだね、スウザン、宅の旦那が合衆國の大統領になられたら？

スウザン 屹度立派になされませうよ。

カフニ君 スウザン、旦那はスプリングフィールドを去てオシントンの市に行かれねばなるま
せ。

スウザン 大方わたし共は結構オシントンに馴染ませうよ。

カフニ君 あゝ、さう聞いて安心した。

スウザン 奥さまはちと嚴重しいのよ、その煙草を吹かすのが。

ストーン君 勿論、さう、有難う、スウザン。

スウザン 旦那は喫はれないし、そら。それに奥さまは特に此お室がやかましいのです。

エブラハム・リンカーン

カフニ君 全くだ。スウザン。お前さん、なか／＼考へ深い。

兩人はパイプをはたき出す。

スウザン それはね、世間には——よく云ふでせう——自分がうちでしたいと思ふとほりに、他の方がしないからつて、その方の味方になれない人もゐますが。

彼女は出てゆく。

カフニ君 「もつと間を置いて、パイプを撫でながら」大會から皆さん方が持つて來なさる用件について、いちあ、間違はあるまいと思ふが？

ストーン君 ない、それやすつかり定まつてゐる。相談でなくて只勧誘だらうぜ。その事の確かなあ、ジョン・ブラウンが歿した事の確かなのと同じさ。

カフニ君 ジョン・ブラウンと云あ、俺にはどうもエブラハムの氣心が呑込めぬのだが。どちらも劣らず奴隷は眞平だといふんだらう。それにエブラハムはジョンが刀を抜いて起つとなると、賛成しない。悪い哲學、とか何とか云つてたつけ。狂熱者流はつまり首繩の端に引つかかるほか、何もしでかさねいんだなんて云つてゐた。

ストーン君 エブラハムは一から十まで憲法擁護さ。憲法を正直な主人にしたいでんだ。それがあの仁の一番望んでるところだ。あの仁がオシントンへ行きさへすれあ、その憲法を擁護するだらうさ、しつかりとね、元氣の抜けぬえ時のサムソンみたいに。あの仁は命を投出すほどにも奴隷はいけねえて此國に説き勧めようさ。だがちや、此國がその勧めを容れて、禁止の法律を作らないうちは、作られもしねえ法律の名を以て亂暴するなんてことは一切しない。そこで、ジョンの闖入事件が、どうしてもあの仁の腹に落ちつかないわけはさ。

カフニ君 勇氣はあつたね、此ジョンは。ほんの二人か三人の自分みたいな熱心な連中と、それからこれんぼつちの黒奴とで、數千人を解放しようよと、あんなにまでやるのだから。

ストーン君 全くちや。それから、元氣のえい言葉さ、みんなが彼を引ばり出して、頸を絞めつちまはうとした時のあの言葉な。「友人諸君、諸君は神様と人道に對し、大罪を犯してゐると私は思ふ。諸君は私を甚だ容易に片づけられるかも知れない。今や殆ど片づけようとしてゐる。しかし、此問題はまだ始末されてゐない——此黒人問題だ。その結末はまだ來ない」。わしは、あの日、あそこに居たがね。ストーンウ・ール・ジャクスンもゐた。彼はあつちへ行つちまつ

た。大佐が一人指揮してゐてね、すんでしまうと、かうわめいたのさ、「かくの如く人類の敵はみな滅ぶ」。だが、それを信じたのは、奴隷を奪られる心配のあつた奴だけさ。

カフニ君 「間を置いて」 あんな人を殺すなんて、悪いことぢや……歌を作つたものがあるよ、ジョンのことを。

彼は靜かに唱ふ。

ジョン・ブラウンのなきがらは

朽ちつゝ墓に横はれ

魂こそはあまがけり……

ストーン君 わしも知つてゐる。

兩人同吟に靜に唱ふ。

御空の星はやさしくも

見おろし給ふおくつきを

ジョン・ブラウンの奥津城を。

やがてリンカーン夫人がはいる。兩人起立する。

リンカーン夫人 今晚は、ストーンさん。今晚は、カフニさん。

兩人 今晚は、奥さん。

夫人 どうぞおかけ下さい。

みなみな椅子につく。

ストーン君 特に、奥さん、お目出度い晩で。

夫人 有難う。

カフニ君 いつ頃、委員の方が参りませうかな？

夫人 七時に見えることになつてゐます。「迂散くさい鼻をして」ニブハラムが煙草を喫つてた筈はないんだが？

ストーン君 「起ちあがり」窓を明けませうか、奥さん？ 蒸暑い晩じや。

夫人 あたりまへだよ、三月に。ストーン。窓はそのまゝにしておおき。わたし共は客室で煙草など喫ひません。

ストーン君 「再び坐り」 大きに。奥さん。

夫人 又願ひませうよ。

カフニ君 勧誘にどう返辭するか、エブララムさんはもう決定しましたかな？

夫人 受けませう。

ストーン君 全く正しい決心じや、と申したいな。

夫人 さうですよ。

カフニ君 で、奥さん、あなたがさういふ鹽梅しきにお勧めなされたのですな、屹度。

夫人 あなたは、先きほど、特に今日は目出度いお晩だと仰しやつた。さうなんです、私はいつもよりも、もつとさういひます、實際目出度いのですから。多分私も偉人と一緒に歴史に残るでせうよ。私は誰もより良人が偉いことを知つてゐるのです。わたしは不器量です、私は喧まじやです、私はあの人のやうにいつも樂な高い道を通つて、一緒に連れだつて行けない心を持つてゐるのです。それは歴史が見ませうよ、そして少しばかり笑つて、「氣の毒なエブララム・リンカーン」て言ひませう。それはそれでよろしい、だけれど、それでみんなではない。

私はいつも知つてゐました、いつあの人が前進するか、いつ踏み留まるか。私はちつと見てゐました。見守つてゐました、で、私の學んだことで、アメリカは利益を得ませう。さうした婦人があります、多勢あります。ですが私は仕合せです。私の仕事はイリノイ州以上に及びます——私共の誰もが云へないほど遠くに及びます。私共が貧乏な時分、私は物事を樂にしてあげて、あの人に考へ、考へさせました。今その考へることが、こゝまであの人を連れて來たのです。オレゴンの知事さんに推された事もありました。そんな者になつたつて、なんにもならなかつたでせう。私は引留めました。今、大統領になつてくれといふ皆様の御依頼です、私はおなりなさいと云ひました。

ストーン君 全く濟みません、奥さん、こゝで煙草を喫つちやつて、どうも。

夫人 そんなことは何でもありやしない、サムエル・ストーン。たゞ、二度としてはいけないよ。

カフニ君 何しろ偉い位地ですから。御存知ですか、エブララムを共和黨が指名したとき、シワードがどんな風に考へたか？

夫人 シワードは野心家です。自分で指名を豫期してゐたのです。エブララムならあの人を利

用する道を知つてませう。

ストーン君 民主黨が分裂したで、共和黨公認候補者の當選は間違ひないらしいですな？

夫人 良人もさう云ひます。

カフニ君 ほんとに、とても信ぜられません。晩方此お室へやに坐つてゝさ、あなたの御主人がはいつて來られるのを見ると、へつこんだ帽子は、あぶなく頭の後方うしろを落ちさうになつて、衣囊いぶくろに入りきらない書類を一杯もち込んで、讓渡じやうどの事だとか違反のことゝかで、虚言うそをついた野郎共を叱り飛ばして居られた時のことを思ふと、あの人が世界中の見てゐるところで、あそこまでも登つてゆかれうとは、わしはとても考へられん。

夫人 新しい帽子を買ひなさいと、何年あの人に云つたか知れやしない。

カフニ君 恰度ニューヨークから新型がどつさり入荷にゅうかしました。饒別にぎはくに一つ受けて貰へるかしたら。

夫人 受けませうとも。だが、被かぶるのはやつぱり古いのを被るんだから。

ストーン君 奴隷と南部諸州。あの人の始末はつまつしなくちやならん大きな事ぢや。「その結末はま

だ來ない。」かうジョン・ブラウンは言つた、「その結末はまだ來ない。」

エブラハム・リンカーンがはいつて來る。縁えりがかつた鞆たもとだらけの高帽たかぼうが、随分とむき出しの前額まえがきから脱げかゝり、廣いどの衣囊いぶくろにも文書が溢れてゐる。五十歳、まだ奇麗きれいに剃りたてた無髭むげの状態を保留してゐる。彼は妻に挨拶し、二人の友人と握手する。

リンカーン や、メリイ。どうです、サムエル。どうです、テモシイ。

兩人 今晚は、エブラハム。

リンカーン 「帽子をとり、雑多な書類を内ぶところから、一つの抽斗ひきだしに振ひ出しながら」ジョン・ブラウン、と云つてたのかね？ さう、ジョン・ブラウン。だが、あのやり口ではいけない。正当なことでも不正の方法でやることはできん。あれでは不正そのこと同様悪い、此國を分裂させまいとすればね。

カフニ君 どちら、行きませう。わし達は今晚、お前さんが、そら、世間で云ふやうに、ど偉い演説をさつしやるんだが、そいつがどうか巧くゆくやうにて、それを云ひに來ただけでね。
ストーン君 わし達身分の卑しい者は、自分で自分が恐ろしくなるのだよ、エブラハム、友達

が世界中で一二といふ偉い人になり、その人の首の振りやう一つで、何千人といふ人間の法律ができるのだと思へばね。

リンカーン 偉いどころか、サムエル、こんなものには選ばれると、人間は謙遜になる。全く謙遜になつて、かうした招呼に、とても「否」とは謂へなくなるのじや。此國民の大統領になる、そして人心には、どちらを向いても困難が集まつて来てゐる。骨に徹へる仕事じや。痛み、嘲り、いやになる男と格闘もする。それで結局、眞實の事は何一つ出来はしない。だが、わたしは行かなくてはならぬ。さうだ。行かなくてはならぬ。有難う、サムエル。有難う、テモシイ。まあ、甘露酒を一杯、ね、メリイ、一寸お留めしてくれ。「彼は食器棚に行く」こん畜生、あの女中奴！「彼は戸口に行つて呼びたてる」スウザン！ スウザン・デヂントン！ おいあの糞ツ甘露酒どこへやつたか？

夫人 好んだよ、エブラハム。わたしが仕舞つとかせたのだよ。戸棚は書類で一杯だもの。

スウザン 「瓶と酒杯を持つてはいる」ほんとに済みません。あの、奥様が——

リンカーン よし、よし、スウザン。あちらへ行つてよろしい。

スウザン はい、はい。

スウザン去る。

リンカーン 「酒を注ぎながら」甘口でお氣の毒だね、お前さん達のやうなホイスキー黨には。まあ氣は心といふから。

ストーン君 どうしまして、エブラハム。

カフニ君 御健康を、エブラハム。奥様、お慶びを申し上げます。それからアメリカ萬歳。サムエル、君に送る、合衆國とエブラハム・リンカーンを。

カフニ君とストーン君と飲む。

夫人 有難う。

リンカーン サムエル、テモシイ——正直な兩友の囑望に對し。メリイ、親切に對し、杯を擧げます。わしはいつもその親切がほしいのだ、變な、惱ましい心情をわしは有つてゐるのだから。それから、アメリカ萬歳！

彼と夫人と飲む。

エブラハム・リンカーン

ストーン君 さて、お休み、エブラハム。お休みなさい、奥さん。
カフニ君 お休み、お休み。

夫人 お休み、ストーンさん。お休み、カフニさん。

リンカーン お休み、サムエル。お休み、テモシイ。ようこそ来てくれました。
兩人は出てゆく。

夫人 こゝであの方達にお逢ひなさるがいゝでせう。

リンカーン よろしい。七時に五分前。あのことは屹度だね？ メリイ。

夫人 屹度です。あなたは？

リンカーン 吾々は必ず奴隷制度に制限を加へる。南部が反抗するであらう。彼等は合衆聯盟を脱退しようとするかも知れぬ。それは許されない。若し聯盟が放棄されば、アメリカは粉微塵になる。それを救ふためには、血を見るかも知れない。

夫人 誰がそれをやり果せませう、あなたがしないとすれば？

リンカーン 誰もない。わかつてゐる。

夫人 ではいらつしやい。

リンカーン 行かう。

夫人 「一秒の後」此帽子は、エブラハム、あなたの不面目ふめんきやくですよ。あなたは私の云ふことなど、ちつとも氣に留めない。なんでもないと考へるんだから。あなたのやうな人は、少しは品ひんといふことを考へなくては。

リンカーン 成程さうだ。忘れてゐた。

夫人 忘れてたのではない。氣にしないだけなんです、あなたは。サムエル・ストーンはこゝで喫煙してゐました。

リンカーン 不注意な男さ。

夫人 さうです。それに好いお手本をあなたはお示しなさる。あなたは私の客室に毒の香ひがしようがしまいが、構ひはしいんだから。

リンカーン 決してそんな事は――

夫人 いゝえ、さうなんです。あなたの頭はいろんなことで一杯になつてゐて、私の慣例しきたりな

んて、お考へなさらない。私には御近所のお友達があるのですよ、あなたにはなくなつて。
リンカーン いや、なに、お前のお友達はわしのお友達でもあるだらう。

夫人 ではなぜ、ちつたあ風采に氣をつけないんです？

リンカーン 全くだ。さうしなくてはならんのだ。

夫人 新しい帽子を買ひますか？

リンカーン さうだ、帽子を調べて見なくては。

夫人 いつ？

リンカーン 一兩日中。そのうち。

夫人 エブラハム、わたしはね、人様が考へなざるよりづつと我慢強いんだよ。

リンカーン その通りだ、メリイ。で、その必要があるのだ、白狀するがね。

スウザンはいる。

スウザン 旦那方がお見えでした。

夫人 わたしがお迎ひします。

スウザン 奥さん、御主人はハンカチを御入用ではありませんか？ 今朝もおもちでございませんでした。

リンカーン もういゝんだよ、スウザン。

スウザン どうぞ、一枚持つて参りましたから。

彼女はそれを渡し、退場。

夫人 こちらへお通しませう。エブラハム、あなたにお任せしますよ。

リンカーン わかつてゐる、わかつてる。

リンカーン夫人去る。リンカーンは壁に掛つてゐる合衆國の地圖のところへ行く。そして、それを視ながら黙つて立つてゐる。數秒の後、スウザンが戸口に現はれる。

スウザン こちらへ、どうぞ。

彼女は案内する、隆とした時めく商人ウイラム・タッカ、敏捷な小男の辯護士ヘンリ・ハインド、瘦せた篤志説教者イライヤス・プライス、共和黨新聞主筆セームス・マキントッシュの四人。スウザン行く。

エブラハム・リンカーン

タッカ リンカーン君。タッカです、私の名は——ウイリヤム・タッカ。「彼は同僚を紹介する」ヘンリ・ハインド君、貴君と同業、オハイオの辯護士會長です。ペンシルベニアのイライヤス・ブライス君、大方、此方の説教はお聞きになつなことがありませう。御存知のジエームス・マキントッシュ。私はシカゴの者です。

リンカーン 皆さん、どうぞよろしく。其後は、ゼームス。おかけ下さいませんか？

皆々卓を圍んで坐る。

タッカ 私は此代表者一行の委員長たる名譽を擔ひます。我々が今回共和黨豫選大會の命を受け、シカゴから派遣された用件は、貴下が、合衆國大統領の職に對し、共和黨候補者たることの大會の勧誘を、お引受け下さるや否や、それをお尋ねしたい爲めであります。

ブライス 目下の政情に照し、民主黨既に分裂せる以上、リンカーンさん、これは立候補の勧誘以上であることを、豫選大會は熟知して居ります。大會の指名は殆ど當選同様確實です。

リンカーン 皆さん。あなた方のうち、私を御存知なのはたつた一人だけです。あなた方は、此職に對し私の不適任な多くの短所を御承知ですか？

ハインド 卒直に申した方がよからうが、それはもはや自由に討議しました。

リンカーン いろいろ、愛嬌とでも申さうか、それも私には缺けてゐる。オシントンでも、それを全然閑却はしない。

タッカ そのことも言及しました。何しろ今日はです、リンカーン君、いはゞ、あまり困難なあまり危険な時代、あなたの有つてゐるとされてゐる他の長所を棄て、そんなことを考慮してゐる時ではない。

リンカーン シワード、フック、兩人とも非常な經驗を有つてゐる人だが。

マキントッシュ フックは強い後援者がなかつた。シワードに至つては、その細心な點に關し二二三の疑問があります。

リンカーン どうか、少しの誤解もないことをお願いしたい。わたしは、正直の心に反かぬかぎり、中庸といふことを目標とはする。しかし、諸君、わたしは甚だ頑固な男です。若し南部が奴隸擴張を固執し、分離の權利を要求する時には——それも有り得ることは諸君のよく御存知のことであらうが——その時も、事を決するの權利が私にあれば、私の決心は抵抗

です、寸毫も假借しない抵抗、必要とあらば血をも辭さない抵抗です。その事を、どなたの心にもはつきりして載きたい。

フライス それはあなたの決心次第でせう。我々はあなたが剛直な人であることを信じます、リンカーンさん。

リンカーン シワードとフックは部下として處する事は困難であらう。

タッカ しかし、止むを得ないでせう。此仕事のやれさうな人はあなた外にはないのだ。

リンカーン どうです、ゼームス、君の共和黨新聞は、どんなことが起つても、主義として私に味方してくれますか？

マキントッシュ これほど心からお指圖に従ひたい人は他にありません。

リンカーン 若しあなた方が私を出せば、南部は此選擇をみて愚弄しませうぞ。

ハインド 信じます、あなたは彼等の嘲笑に屹度ひつこたへますから。

リンカーン 私は誰の嘲弄でも我慢できる——それには慣れてゐます、幾……さうですね、神様の思召だけの端數度び、冗談を云つて見れば。しかし此奴隷事件は長くて深刻でそして苦い

であらう、わたしには分つてゐる。若し皆さんが此名譽を私に與へようとなさるのなら、皆さん、此件では決して私に妥協を望まれてはなりませんぞ。若し奴隷廢止が、憲法上の手段により、適當な時に成立すれば、よし。私はそれを求める。しかし、吾々は奴隷廢止を強制したくはないが、同時に決して此制度に承認は與へない。又、一尺づゝその境界線を擴張することも許さない。此決心は私の此血のうちにあるのです。少年の頃、私はニュー・オルレヤンに旅行しました。その時彼等が、縛られ、打たれ、盗犬でもこんなめに逢はすのは人間なら恥かしいと思はれるほどに、蹴られてゐるのを見ました。又、若い女の子が、買手の満足するように、室をあちこち追ひたてられてゐるのを見ました。その時、私は云ひました、「若しこの事を敲きつけてやる機會が私にあつたら、見る、うんと敲きつけてやる」と。

何も條件はありませんな？

タッカ 無條件。

リンカーン 「起上り」家内は御食事を差上げたいと云つて居ります。

エブラハム・リンカーン

タツカ 有難う、御親切に。だが御返事は？ リンカーン君。

リンカーン タツカ君、あなたが茲へお出での時、あなたは私をお知りでなかつた。今になれば何か仰しやりたいことがあるかも知れん、私の耳にでなく。

タツカ いや、決して、何も——

リンカーン 家内に仕度をさせます。ほんの一分間ばかり御免下さい。

彼は出てゆく。

タツカ さて、もつと男ツぶりの好い品は選べたかも知れんが、之よりよりよいものが選べたかどうか、疑問だね。

ハインド 立派な裁判官になれる、彼は——君が起訴してゐる時は別だが。

ブノイス 私は大抵の人には物を云つて聞かせるが、此人には物をきくね。

タツカ まだ諾否を述べなかつた。なぜあんなにして出て行つたのだらう、何だか、卒直が卒直でないやうに。

ハインド 大方、最初に、自分だけで、一ト思案したかつたのだらう。

マキントッシュ

さうではない。だが彼が正しいのだ。エブラハム・リンカーンといふ人は大抵の者よりも、づつと深く人の心情を見抜く人だ。今日といふ日が吾々すべての一生にとり、記憶すべき日になるだらうと、彼は知つてゐるのだ。此室にはいつてから、偶然諸君の心の中に、彼に反対の意見が起つたとする。して、彼の目前にあつて、諸君のうち誰か此反対意見を自由に述べ得たものがあるか？ しかし、彼が去れば、氣樂に、自分自身で、自分をテストすることができ、それをもつと打明けて話すことができる。で若しかくして疑問を一掃することができれば、後になつて更に氣易く心のなかにそれが運んでゆける。彼はそれを知つてゐたのだ。我々の間に何か疑問があるかね？

タツカ

ハインド

いや、全然ない。

ブノイス

マキントッシュ

では、タツカ君、彼が歸つて來た時、今一度お訊ねなさらうでせう。
タツカ 承知した。

エブラハム・リンカーン

皆々暫く黙つて坐つてゐる。

リンカーンは又はいつてきて、卓のそばのものと席に歸る。

リンカーン 早速御返事しないことを、無作法だと思つて下さらぬように。しかし、一度御返事したが最後、此國全體にとり、深い吉か、乃至は深い凶です。左様な場合であれば、二十度び確かだと思つても、二十度び自問するのも當然であらう。あなた方は何等の制限をいたしませんか、あなた方のうちのどなたも？

タッカ なし。勧誘は我々が着座した時、私が述べた通りです。で私はそれにつけ加へて述べたい、吾々全部の者は、之を受納すべくより適当な人を知らずと感ずる人に、此使命を齎すことを誇りとする者であることを。

リンカーン 皆さんにお禮を申します。私はお受けします。「彼が立上るので、他の者も一緒に立つ。彼は月口の所へ行つて、呼ぶ」スウザン。

沈黙。スウザン登場。

スウザン はい。

リンカーン 此方々を奥さんのところへお連れしな。私はすぐついて行くから。

四人はスウザンと一緒に出て行く。リンカーンは黙つて一寸立ち留まり、又地圖のところへ行つて、それを視る。それから復たテーブルに歸り、その側に跪き、ものに憑かれたやうに又考へ込んで顔を両手に埋める。

幕が下りる。

二人の史家

寂しかり、かの事を解するの人。

寂しかり、かの達觀ダイジョン、

人を牧場より、

小麦の畦うねより、

枯草の茶色の積荷つみねより、

山腹へと誘さそひゆく達觀。

廣き谿たにあひにて

種蒔き、土耕やす人々の間に、

彼れの得たるあらゆる冒險は

黙念もくねんにより

聚つらまりて融會ゆうかいせる一經驗となり、

彼を高地へと誘さそひゆく、

この經驗こそ、

彼の魂の行路を支配し

彼の手に勇氣と包容力を與ふ。

第一の史家

人悟らんか、

惱みを覺えずんばあらず、

蓋しその同族どうちく

心まどひ

何等對抗するものなきになほ紛争す、

又彼れ

その知慧より忠言を與ふるも

聞くもの絶えてなからん。

しかも斷乎、空しき説論に日を送り、

彼の試みは

減ずることあらざるべし。

第二の史家

貪り求むるは些事、

目前の利得、

短き安定、

口に輕きほまれ、

かくて多數者は彼の達見を嘲らん、

彼の頭腦の

遠く不可測の記念塔へと築きゆく達見を。

多數者は彼れの高き決意を

自安てふ勞銀へと糶り下ろさん。

第一の史家

一年は過ぎゆく。

兩人同聲

茲に靜觀せよ

一つの心情を、

運命の暗澹たるなかに

自若として怖れざる心情を、

夢みつゝ、ひとり寂しき心情。

第二一景

十ヶ月後。首府オシントンに於けるシワードの一室。ウィルヤム・エッチ・シワード、内務大臣、南部十一州聯盟委員会を代表してゐるジョンソン・ホワイト及びカレブ・セニングスと、卓によつて對坐してゐる。

ホワイト 南部での一般感情ですぜ、シワードさん、あなたこそ唯一の人、オシントンで大きな想像力を以て此事を見得る人は他にない、唯あなただと。何も大統領を輕蔑してこんなことをいふのではないが。

シワード 御好意は諒解します、ホワイトさん。しかし合衆聯盟は合衆聯盟です——それを蹴飛ばすわけにはゆかない。我々の當面してゐるのは、明白な一個の事實です。南部の七州が既に聯盟脱退を宣言した。大統領の感じは——わたくしも、わたくしの同僚も、彼と同意見だと申上げてよいが——此國をあのやうに分裂せしめることは、とりもなほさずアメリカの衰退を意味することです。

ゼニングス しかし、シワードさん、萬事妥協でやれないといふわけもないでせう。君の守備兵をサムタ要塞から退却させなさい。ボーリガード(南軍の)に訓令を發して、攻撃を中止させませう。南カロライナ州もその權威を認められればそれで満足しようし、そして必ず、自ら進んで、他州に聯盟脱退を再考するよう、その先達(せんだち)にたるに相違ないから。

シワード 成程、儘に引着力もあり、且つ私の解するところに由れば、人道に適つた提案だ。

ホワイト で、それに一步を進めればです、シワードさん、あなたこそ、此國を内亂から救ふ救主になるかも知れない。

シワード 大統領は、就任演説で、サムタ要塞を固守するといふ決心と再三繰返された。それを翻へすように説伏(とくふく)せることは難儀でせうて。あの人は一旦決心すると、なかなか堅いから。ホワイト あの人は頑固だといふ者もある。屹度、これほど簡単な手順(ていじゆん)で、測り知られないほどの大災厄の避け得られることを、上手にあの人に吹込まうものなら、誰だつて、威嚴を云云して、決して曲げないと頑ばる者はあるまい。わたしは率直に申します、率直にいふべき時だから。リンカーン氏は儘にすぐれた品位を有つた人だ。二回話したことがあるが、印

を受けないといふわけでもなかつた。さうだね、ゼニングス君？

ゼニングス 全く。

ホワイト しかしだ、國家の重大事件に際する氏の經驗はです、シワードさん、あなたに較べてどれ程の高になりますか？ あの人もみづから知らなくてはならん、自分がどれほど内閣の二三の閣員に、いや、率直に云つてしまへば、内閣のある一員に依頼して、その意見を尊重しなくてはならぬかを。

シワード 吾々は大に慎重に行動しなくては。

ゼニングス もとよりです。何しろ、初めて政權の味を占めると、人は勢ひ敏感になる。

シワード 勿論私の大統領援助は、疑問を挟む餘地がない程度です。

ホワイト おゝ、全然。しかし、あなたの最も高價なる援助は、あなたのその匹敵するものなき理解力を彼に貸すより外にあり得ませうか？

シワード 何様、あの人の心中は、萬事奴隸問題で色づけられてゐるので。

ゼニングス その心の誤りを解くことです。奴隸問題は何でもない。まづサムタ要塞から撤兵

するよう説伏せるのです、さすれば奴隸問題は卓を圍んで談笑の間に解決できる。御承知でせう、南部に於てさへ、奴隸廢止論者はかなり多數です。萬一此賣買が他州で許されることになるにしても、之を内亂の慘禍に較べれば何です？

ホワイト 南部諸州が必ずしも幾分の熱を以て分離を望んでゐるとは、私共は信じません。只彼等の願ふところは、かくすることの彼等の權利を確定したいと云ふだけです。その權利を認めてやりなさい、サムタ要塞を明渡して。何も起りはしない。精神の獨立に對する全く適當な讓歩、それだけです。精神の獨立は決して根本に合衆聯盟に不忠ではない。

シワード 勿論御諒解でせうが、私は公けには何とも申上げられません。

ゼニングス 吾々とても非公式の勸告に過ぎません。

シワード だが、御同感でないわけではないことだけは申上げてよからう。

ホワイト 必ず左様であらうと承知してゐました。

シワード 且つ私の意見がまんざら勢力がないわけでもありません。

ゼニングス その勢力の用ひやうに由つては、シワードさん、非常な信望をあなたに齎す所以

にもなりません。

シワード 兎に角しほらく當分、お歸りになつてあなた方の御報告をなさる以上には、此會見のことは何も云はないことにして載きたい。御報告も必ず祕密でせうから。

ホワイト 吾々を御信頼下さい。御懸念には及びません。

シワード 「兩人と一緒に立ち上り」では失禮します。

ホワイト 吾々兩人はあなたの寛仁大度なお心に對し、深く感銘いたし、此お心を以て當面の重大用件をあなたが御指導下さることを確信いたします。左様なら、シワードさん。

ゼニングス 又私は――

戸口にノックがある。

シワード はい――おはいり。

一書記官はいる。

書記官 大統領が階段を上つて來られます。

シワード 有難う。「書記官ゆく」これは運悪く。何も云はないで、すぐ去つて下さい。

リンカーン登場、前とちがつて頼にも頼にも髯を立てゝゐる。

リンカーン お早う、シワード君。お早う、皆さん。

シワード お早う、大統領。では皆さん、ようこそお訪ね下さいました。左様なら。

彼は戸口の方へ動く。

リンカーン 皆さん。十分ばかり私のために割愛して載きたいものだが。

ホワイト いや、とても――

リンカーン 五分でもよろしい。

ゼニングス 大方あなたは――

リンカーン 私はいつも南部諸州の友人諸君と意見を交換する機会を熱望してゐます。大に蒙るを啓くことが、五分間にも、あり得るかも知れない。おかけ下さい、どうぞ――若しシワード君が許して下さいば。

シワード どうぞ、どうぞ。私はあちらへ参りませうか？

リンカーン あちらへ――それはなぜだね？ 私は國務大臣たる君の援助を要するかも知れん、

エブラハムリンカーン

ね、全然二人が同意見になれないにしても。おかけ下さい、皆さん。「シワードは一脚の椅子をリンカーンのために設ける。皆々卓にそうて席につく」あなた方は私共に何か使命をおもちでせうな？

ホワイト え、いや、さうでも。

リンカーン 何の使命もない？ 私はちと聞きたがりですか？

シワード 此諸君はどこにか緩和力はないかと、それを熱心に索めてゐられます。

リンカーン その緩和力を御持参だと信じる。皆さん、私は喜んで謹聴します。

ゼニングス これはなかく微妙な問題でしたな、リンカーンさん。私共のはほんの非公式の訪問です。

リンカーン でせう、さうでせう。しかし互に心を知りあつて損をすることもありません。

ホワイト どうでせう、シワードさん、私共の用向を大統領におはなしいたしませうか？

リンカーン 大きに有難う。萬一私に解りかねたら、シワード君が勿論教へてくれませう。

ゼニングス 私共はこんなまだ纏らない時期に、あなたをお煩はせすることもないと思ひました。

リンカーン こんな纏らない時期に？ 何の？

ゼニングス えい、その——

シワード 此諸君は、平和を欲する共通の熱望により、勸告のなされ得る最上の方法を求めてゐられたまでです。

リンカーン 勸告の？ 誰に？

シワード 政府にです。

リンカーン 政府の首脳は茲にゐます。

ホワイト しかし——

リンカーン さ、諸君。何です？

ゼニングス サムタ要塞の件です、大統領。若しあなたがサムタ要塞から撤兵すれば、それはあなたの弱さからだと解釋せられはしません。單に當然の特権に對する一讓歩として考へられませう。私共は信じます、南部は心から分離を欲してはゐません。唯、自分で事を決定す

べき権利を確立したいと願ふのです。

リンカーン 南部の願ふところは奴隷制度に對する國家承認の捺印だ。國家はそれは許せない。ホワイト 儘にそれは要點ではありません。南部には奴隷制度に反對する法律はない。

リンカーン 法律といふものは、ホワイトさん、輿論からできる。南部はそれを承知してゐる。ゼニングス 大統領、遠慮なく申せば、あなたは全然理解なさらん。

リンカーン シワード君は理解してゐますか？

ホワイト 左様信じます。

リンカーン 間違つてゐる。シワードは理解しない。あなた方が彼を理解させようとしなかつたのだから。私はあなた方が悪いとは云はない。あなた方は自分では最上の道を盡してゐると思ひ、正直な事件を捉へたと考へて居られる。しかし、私が代つて此件を述べよう。赤裸裸に述べよう。……多數の國民は奴隷廢止を要求してゐる、又他の多數の人々はそれを要求してゐない。その正邪曲直については、私は此際何も云はない。しかし、何人も、之を欲すると否とを問はず、廢止の時が必ず來ることを知つてゐる。何故に南部が分離を提議する

のか？ 廢止の時が來ることを知り、そしてそれを避けたいが爲めである。南部はそれ以上を求めてゐる。奴隷の基礎を擴張する権利を求めてゐる。奴隷制度については、吾々が皆責むべきであつたのだ。しかし、北部に於ける吾々は、進んで吾々のなすところを改めようと欲してゐた。あなた方はさうではない。そこであなた方は分離して自分等だけの法律を造らうとする。しかし抵抗するだけの準備はなかつた。抵抗したくもない。そこで若し最初の危機をどうにか泳ぎ抜け、一度吾々に讓歩させさへすれば、輿論は吾々を妨げて、再び威力を用ひてあなた方に反對することを許さないであらう、その時脅喝手段を用ひても、此奴隷業を思ふがまゝにやることができる、と、かうあなた方は望んでゐるのだ。これがあなた方の實際だ。さうはシワード君には云はなかつただらうが、實際はさうなのだ。そこで今度は私のお答へをする。皆さん、之は隅ツこに隠して置いても何にもならん。私は先般も云つただ、サムタの要塞は吾々の守りうる限りは守ると。私はその意味を正確に知つてゐるから、さう云つたのです。何故にあなた方は要塞を包圍してゐるのか？ それは分離の権利を確立する爲めで、その権利を行使する目的は更に有たない、と、かう云ふのもそれは御隨意だ。

では、なぜその権利を確立したいのか？ 目下吾々は奴隷制度の擴張を許可しないから、そしていつかは之を廢止するかも知れないからだ。之は否定できない。他に答へのありやうはない。

ゼニングス 事情はよく理解できる。かうだ、自由を強制するのは、お好きただけだけれだけやつても差支ない、しかし吾々が奴隷を強制するには、用心しなくてはならぬと、かうい、こ
とだ。

リンカーン その通り、ゼニングスさん、それより巧にはとても述べられない。それが合衆聯盟のある所以です。共通の権利を擁護すればこそ一合衆聯盟です。それこそ聯盟の基礎だ、——すべての正しき人が此聯盟を保存するに力を致さなければならぬ理由はそこです。此未決の論點を明瞭にして貰ひたい。若し戦争がありとすれば、それは奴隷問題の爲めではない。若し南部が聯盟に忠實であれば、立憲的手段を用ひて奴隷禁止法案と戦ひ、力に及ぶなら、之に勝つて、その欲する道に進むべき筈だ。若し南部が分離の権利を要求するなら、その時こそ破裂から此國を護り、祖先が吾々のために此合衆聯盟を勝ち得た時、各州が誓つた、そ

の権利を支持するため、戦争の外に途はないことになるかも知れない。吾々は合衆聯盟を破りたくない、又あなたの方にもそれをさせてはならぬ。あなたの方の手に、よろしいか、私のではない、あなたがたの手の中に、内亂を起すか起さぬかの緊要な選擇權はあるのだ。あなたの方が進んで争の端を開く人にならなくては、紛争のあり得る筈はない。私は取つ組みあふのは大嫌ひです。我々は敵ではなくて、友達なんだ。仇同志になつてはならない。どんなに感情の昂ぶることがあつても、そのために、吾々の愛情の絆を破りたくない。是れが私のお答へです。それを皆さんに傳へて下さい。どうです、傳へてくれますか？

ホハイト 御決心のやうですな？

リンカーン どうか皆さんにお傳へ下さい。

ゼニングス 御希望通り取計ひませう。

リンカーン ポーレガードの退却を命ずるより、皆さんに歎願して下さい。今、ここから、電報をお打ちなされて差支ない。さうしてくれますか？

ホワイト お望みとあらば。

リンカーン 熱望します。あ、シワード君、どうか書記官を一人おつけしてあげて下さい。御返事もどうぞ。

シワード 呼鈴をならす。一書記官がはいる。

シワード 此方々に機密電報を御用立して下さい。君自身に萬事お世話をしてね。
書記官 かしこまりました。

ホワイトとゼニングスが件の書記官と共に出てゆく。暫くリンカーンもシワードも黙つてゐる。
リンカーンは室をあちこち歩き、シワードはテーブルの傍に立つて。

リンカーン シワード、之はよくない。

シワード あなたはまさかお疑ひ——

リンカーン いや、そんなことはない。だが、お互に率直にしようではないか。兎に角、賢明にとは誰も云へまいが、神様の攝理が私を此國家指導の地位に置かれ、私の前には、オシントンその人の肩に懸つたよりも、もつと重大な任務がある。私が内閣を組織した時、私が選んだ第一の人は君なのだ。私はそれを後悔はしない、今後ともしなうと思ふ。しかし忘れては

いけない、信頼が信頼を生むことを。何だね？ なぜあの人達は私に逢はなかつたのだね？

シワード あの人達自身の口からよりも、私を通じた方が、より多くあなたに重んぜられると思つたのです。

リンカーン 君の口から？ 何事の？

シワード サムタ要塞に関する熟慮。

リンカーン 熟慮？

シワード 全く此戦争といふ考へは破滅です。

リンカーン その通りだ。君は私とその事について、君ほどそんなに感じないと思ふのか？

戦争は不可能であるべきだ。だが、之を不可能ならしめるのは、その原因を亡ぼしてこそ初めて望まれる。サムタ要塞から撤兵することは、さうした種類のことで決してないことを、君は悟らないのか？ 若し此國の一半が、合衆聯盟を否認する権利を要求すれば、その要求こそ、我々の間の眞の聯盟擁護者の眼には、戦争を惹起す一原因と見なくてはならん筈だ。此聯盟が、實際人生の穩當な原則として、公衆の一致協和して作つたものでなくて、一個の虚

偽だと吾々が考へるならばいざ知らずだが。サムタ要塞から撤兵しても、此原因を亡ぼすことには毫もならない。それを亡ぼすには、よろしいか、分離は信頼を裏切るのだといふことを、彼等に確信せしめるの外に道はない。どうか神様のお力を借り、吾々はそれをなしたい。

シワード　では、此事を悉く全国に明言しないのには、何か怯懦な心があつたのですか？　大方。

リンカーン　怯懦？　君は先程は熱慮と云つてゐたが。

シワード　私は吾々の政策が多分十分には定義されてなかつたといふのです。

リンカーン　そして君は吾々の決議案に一々同意しなかつたのかな？　みづから欺いてはいけない。初めの息では熱慮を私に説き、次の息では怯懦を以て責めようとする。そこに幾干の希望がなほ存し、彼等もみづから考へ直し、ポーレガードを招還するかも知れないと思つてゐたうちは、私は彼等を激昂させるやうな事は一切云ふまいと決心してゐたのだ。それを君は怯懦と呼ぶかね？　今や彼等の意圖は明白である。そして君も聞いたであらう、今朝明白に私の述べたことを。で今になつて又君は熱慮といふ——君がだ、正しい時に熱慮であつたも

のを怯懦と呼んだ君が、今、間違つた時に怯懦を注告し、そしてそれを熱慮と呼ぶ。シワード、君はわしを単純な男だと思ふかも知れないが、しかしわしは君の心の働き工合が、はつきり見えるよ、君に時計のからくりが見えるほどに。君は君の熱心をもつてして、君の施政上の経験を以てして、君の人に愛好せられる徳を以てして、此政府に偉大な賜を齎らすことができるのだ。わたしが遅鈍な頭腦を以てゐると思つて、政府をだいなしにしてはならない。

シワード　〔徐々に〕わかりました。その事を全く明瞭に考へてゐなかつたのです。

リンカーン　〔衣櫃から一枚の書類を取出し〕君の送つてくれた文章だ。大統領の考察に供する管見二三。大英國……ロシア……メキシコ……政策。大統領は之をみづから統率するか、さもなければ、之を内閣の一員に委託すべきなり。之れ余が管轄内にあらざれども、余は責任を回避せんことをも、はた之を自ら荷ふことをも、求むるものに非ず。』

間がある、兩人は口を開かないで互に見つめてゐる。リンカーンは件の書類をシワードに渡す。シワードは暫くそれを有つてゐるが、やがて引裂き、自分の屠籠に入れる。

シワード　相済みません。

エブラハム・リンカーン

リンカーン 「彼の手を取り」 君は勇気がある。

秘書官 ヘイはいる。

ヘイ アンダスン少佐から使者が参りました。サムタ要塞からまつしぐらに乗り切つて来たのであります。

リンカーン 私の室へ通して下さい。いや、茲へ連れて来て貰はう。

ヘイ行く。

シワード なんでせう？

リンカーン いやな噪ぎだね。「彼は呼鈴を鳴らす。一人の書記官はいる」内閣の人で茲に居られる人がありますか？

書記官 チュース氏及びブレイヤ氏、かと存じます。

リンカーン わたしからの挨拶を述べて、それから、必要があれば、すぐさま茲へ来て貰ふ準備をして戴きたいと、かう傳へて下さい。同じやうな傳言を、君の探し得るかぎりの他の諸大臣にも傳へて下さい。

書記官 かしこまりました。「彼は出てゆく」

リンカーン 愈々決定の時が来た——愈々。「ヘイは汗を流し埃にまみれた傳令を案内し、そして退く」アンダスン少佐からかね？

傳令 ハイ、閣下。口上で御座ります。

リンカーン 君の信任状は？

傳令 「リンカーンに一枚の書附をわたし」之でございます。

リンカーン 「一ト目みて」で？

傳令 アンダスン少佐は政府に忠誠の心を表されます。少佐は、食糧並に援兵なくとも、今後三日間は要塞を支へることができます。

リンカーンは呼鈴を鳴らし、待つてゐるうちに第三の書記官はいる。

リンカーン ホワイト氏やゼニングス氏は、まだ返辭を受取らないか、見てきて貰ひたい。えいと——何とか云つたね、書記官の名は？

シワード ホウキンス。

エブラハム・リンカーン

リンカーン　ホウキンス君がお世話をしてゐる筈だ。それから、ヘイ君に茲へ来るようさう云つて下す。

書記官　心得ました。

彼はゆく。リンカーンはテーブルに向つて坐し、ものを書く。ヘイ入る。

リンカーン　「書きながら」ヘイ君、君はスコット將軍がどこにゐるか御存知かね？

ヘイ　参謀本部、と心得ます。

リンカーン　君自身でこれを持ってゆき、そして返辭を貰つて来て下さい。

ヘイ　承知いたしました。

彼は書附を受取り、出てゆく。

リンカーン　要塞の状況は大層悪いかね？

傳令　少佐は三日と申されます。私共の大半は二十四時間と申したいところであります。

戸口にノックがある。

シワード　はい。

ホーキンス書記官入る。

ホーキンス　ホワイト氏が只今先方から返電を受取つてゐられます。

リンカーン　終つたらすぐ茲へ来て貰つて下さい。

ホーキンス　はい。

彼はゆく。リンカーンは遠方にある戸口に行き、それを明け、傳令に向ひ。

リンカーン　君は茲で待つてゐて下さい。

傳令使はそこを通つてはいる。

シワード　喫煙してはいけませんか？

リンカーン　さあどうぞ。さあどうぞ。「シワードはシガアに點火する」三日。若しホワイトの報

告が役に立たねば——三日。

シワード　しかし、今となれば、戦術の必要上撤退しなくてはならないですな。

リンカーン　なぜホワイトは來ないのだらう？「シワードは窓のところへ行き、それを開ける。彼

は街路を見下ろしながら立つてゐる。リンカーンは戸口の方をヤツとみつめてテーブルのところ立つ。

一二秒の後、ノックがある。おはいり。「書記官ホーキンスはホワイト及びゼニングスの兩人を案内して入り、それから退く。シワードは窓を閉める」で？

ホワイト お氣の毒です。承服いたしません。

リンカーン あなた方は私の云つたことは皆傳へたでせうな？

ゼニングス 一語のこらず。

リンカーン 危機一髪の時ですぞ。

ホワイト 彼等は決定的です。

リンカーンは一二度室をあちこち歩き、またテーブルの自席のところゝ立つ。

リンカーン 少しの餘地をも残なさいのですな？

ホワイト 洵にお氣の毒です、全然ありません。

リンカーン 洵に重大な裁断だ。怖ろしく重大な。有難う、皆さん。左様なら。

ホワイト

ゼニングス

左様なら皆さん。

兩人出てゆく。

リンカーン おゝ神様！ シワード、吾々は絶大な勇氣を要する、絶大な信仰を要する。「彼は呼鈴を鳴らす。第二の書記官はいる」君は私の傳言を傳へましたか？

書記官 はい。チェース氏とブレーア氏とはこちらにゐられます。他の大臣の方々も即刻參集いたされます。

リンカーン すぐ茲へ来るやうお願いして下さい。それからヘイ君が歸つたら、之もこちらへ。書記官 かしこまりました。「彼は行く」

リンカーン 「間を置いて」『大凡そ人事には潮時がある……』。君は、シェークスピアを読みますか、シワード？

シワード シェークスピア？ いや。

リンカーン あゝ！ 「大藏大臣サアモン・ピイ・チェース、通信總監モンゴメリイ・ブレーアはいる」お早う、チェース君、ブレーア君。

シワード お早う、諸君。

エブラハム・リンカーン

ブレイヤ お早うございます、大統領。どうです、シワード君。

チェース お早う御座います、大統領。何か緊急問題？

リンカーン まあ坐らうではありませんか。「彼等がテーブルの廻りに椅子を運ぶうち、内閣の他の大臣、シモン・キヤメロン、キャレブ・スミス、バーネット・フック、及びギデオンのウエルズはいる。互に挨拶を交換してテーブルの周囲に座を占める」諸君、吾々は今や一大危機に際して會合してゐるのです。恐らく此國に於ける歴代の政府が、會て當面しなかつたほどの運命の岐路に立つ危機。簡単に述べられる。傳令が只今アンダスンから到着した。彼がサムタ要塞を支へ得るのは高々三日間、我々が援兵及び食糧を送れば兎も角。

キヤメロン 兵數は？

リンカーン 一二分のうちに所要の兵數をスコットから知らせて来るはずです。

ウエルズ 所要の兵士がゐないとすれば？

リンカーン その時は糧食の問題だ。吾々は到底十分有効に行ふことはできぬかも知れない。問題は、吾々のできるだけを盡すかどうかといふことです。

フック 若し吾々が全然撤兵するとすれば、そのことは、南部に向つて彼等の權威を承認するものとして、妥協に向ふ指導を與へ、同時に、吾々にも、萬一國論危険なりと見ば、兵を動かすの必要を主張する自由を残すものではないでせうか？

リンカーン 私の心は明白です。吾々ができるだけの力を盡さないことは、その事がなんであらうとも、南部の分離權の要求を根本的に許すことにならう。これが私の意見です。諸君が只今此問題を回避するなら、遅くとも明日はそれに答へなくてはなりません。

ブレイヤ 私は大統領に賛成です。

フック 吾々はできるだけ交戦行爲を遷延しなくてはならん。吾々は撤兵すべきだと私は考へます。

リンカーン 撤兵することは戦争を遷延するかも知れない、しかし結局避け難い破目に導くことを君は察しませんか？

スミス 抵抗すれば、避け難いことになる。

リンカーン さうなりはすまいかと私は氣遣ふ。しかし、其場合、吾々は妥協しない強い主義

を振りかざし、堂々と戦争状態にはいれる。チェイス君は？

チェイス 難問です。しかし、全體として、大統領、私はあなたと同意見です。

リンカーン で、君は、シワード？

シワード あなたの御意見は尊重します。しかし私は賛成いたしかねます。

戸口にノックがある。

リンカーン おはいり。

ヘイ入り来る。彼は一通の書簡を大統領に渡し、出てゆく。

〔讀みながら〕 スコットは兵二萬といつてゐる。

シワード 一萬の準備もない。

リンカーン 残るところは糧食を送る問題だ。私は諸君悉くに訓令する、諸君の理解力のすべてを盡して、此事を考量するよう。今一時を彌縫するを以て、私の意見では、戦争を避けるわけにゆかない。吾々が全力を擧げて、サムタ要塞を死守することの一旦の決心を翻さないこと、及び、合衆聯盟は擁護されなくてはならないことの平明率直な宣言を以て、ありのま

まに天下に訴へれば、吾々は正々堂々の大義を單純に且つ忠實に支持したことになる。私は戦争を思ふも身震ひがする。しかし、吾々の手に委ねられた神聖な一個の委託がある。それが今や脅かされてゐる。吾々は毛頭謂れなき攻勢の心はなかつた。吾々は寧ろ攻めたてられたものであつた。説き勧める努力も水泡に歸してしまへば、抵抗するのは吾々の義務だと私は考へる。アングスンに向つて供給を差控へることは、その義務を拒絶するものではないであらうか。諸君、問題は諸君の前にある。〔同〕要塞援助賛成の方は？〔リンカーン、チェイス、及びブレイヤ手を擧げる〕即時撤兵賛成の方は？〔シワード、キャメロン、スミス、フック、及びウエルズ手を擧げる。數秒間の間〕諸君、私は或は諸君の決議を蹂躪するの責任を私自身に引受けねばならぬかも知れません。議會及び輿論を満足させるのは、私がいたしませう。どんなか辭表提出の方がありませんか？〔沈黙〕諸君の御審議を感謝します。今日はこれまで。〔彼等は起立する。諸大臣はシワードを除くの外、皆々出てゆく、話しながら戸口を越えて向うへ〕君は間違つてゐる、シワード、間違つてゐる。

シワード 私はあなたを信じます。あれほどまでにもあなたの判断力を尊敬します。しかし、

私は感ずるまゝを述べる外、致しかたがありません。

リンカーン あの使用者に私だけで話したいのだが？

シワード よろしう御座いますとも。

彼は出てゆく。リンカーンは一寸の間身動きもしないで立つてゐる。それから合衆國の地圖のところへ行く。地圖はイリノイの彼れの家にあつたものよりづつと大きい。そして以前の通りそれに見入つてゐる。彼は戸のところに行き、それを開ける。

リンカーン おはいり。「傳令使はいる」君は馬ですぐアンダスン少佐のところへ歸れますか？

傳令使 はい。

リンカーン かう傳へて下さい。吾々はすぐ援兵を送るわけにゆかない。兵がゐないのだ。

傳令使 はい。

リンカーン それから、糧食第一輸送車は今晚ヲシントンを出發すると。

傳令使 承知いたしました。

リンカーン 有難う。「傳令使行く。リンカーンは一瞬間、テーブルのところ立つ。呼鈴を鳴らす。ホ

ーキンスがはいる」へい君を、どうぞ。

ネーギンス はい、かしこまりました。

彼は出てゆく。一秒の後へいがはいる。

リンカーン スコット將軍のところへ行き、すぐ来るよう願つて下さい。

へい 承知いたしました。「彼はゆく」

幕が下がる。

二人の史家

おみ達、

行きて矢車菊や

繡錦菊摘みしことあるの人、

榛の實、長月のよひく、

はらと落つるを聞きし人、

黄金の小麥畑越え

翼はりて歸りゆく鴉、

又は睡蓮の葉を飾る

白銀の杯見しことあるの人。

おみ達、

灌木の列樹より歸り

耕地より歸り

夕間に立つ老翁の

ものやさしさを知るの人、

又は林際風起り

鳴く緑きつゝき

枝かげに逃げゆく時

風の定めなき

抱愛を知るの人、

第一史家

おみ達、

さみだれ頃の樹液あふれ、

エブラハム・リンカーン

水流域よりみなぎるを
心とめし人、
穀物伸び
乾芻時くるを指をり、
之を知りつゝ
日毎のパンを
數へし人、

第二史家

おみ達、
門前儕輩と禮を交はすを喜び、
愛のさだめのもとに、
爐邊に坐し、

死のいつかは
おみ達と語りつゝあるを知るの人、

兩人同聲

同族の方々、
これ等の光をほかにして、
本然の慧知とは何か？
これ等を知りつゝ
なほ以上學ぶことのありや、
人の世、短きに。
おみの日々を照らす
輝きの福音は之に盡きずや？
しからばいかんぞ

エブラハム・リンカーン

美望と、その子恐怖とにて、
おみの心、惱みてあらんは？
いかんぞかの山上より來りし
光の言葉を忘るゝ？……

福なるかな矜恤あるの人……
家々求むるのもの

牧場に、小鳥の飛翔に、

そはいつも惻隱の心ならずや……

福なるかな矜恤あるの人……

吾等今も順禮者にて

鐵籠の山より下り

知と好意のことばを

述べ傳ふるの要ありや？

第一の史家

暗黒の二ケ年、此人ますく熱しぬ。

決意いよ固く、

惻隱いよよかはらず、

彼れ進む、

なさけと高き心情もて

統率の道を。

第三景

約二年の後、大統領官邸白聖館の小應接室。リンカーン夫人が手紙を書いてゐる。自分の真人は

エブラハム・リンカーン

裁縫師からみた上品なことに、とても望みはないと絶望しきつて、そして官職上の此必要には、自分ひとりか應じてゆくより外に道はないと痛切に意識して、多分少しばかり考へ過ぎたといふ有様に着飾つてゐる。彼女が呼鈴を鳴らすと、スウザンがはいつて来る。スウザンは此立身をもつと哲學的に解釋してゐたやうだ。

リンカーン夫人 御訪問の方はどなたでもお通しして下さい、スウザン。それから、大統領は

お茶にお歸りかどうか、お尋ねしてね。

スウザン リンカーンさんから只今お使ひでして、お茶にお歸りださうでございます。

夫人 さうですか。「スウザン行きかける」スウザン。

スウザン はい、奥さま。

夫人 お前はまだリンカーンさんてお云ひだね。大統領といふのだよ。

スウザン はい、奥さま。ですが、そら十五年間もリンカーンさんて呼びならつたのですから、つい難かしくて。

夫人 覚えなくてはいけません。今では誰方でも大統領とお呼びなさる。

スウザン いゝえ、奥さま。今でも「おやちのエブラハム」と呼ぶ人は随分とあります。それか

らね、それよりもつと好きだつていふ人もあるんです。今日も今日とて、お店のコールドペニさんがかう云つたのよ、「やあ、スウザン、どうだね、今朝、エブ老爺さんは」つて。

夫人 そんな風にお前、焼つけないようにして貰ひたいね。

スウザン いえ、決して、奥さま。私はいつも、リンカーンさんていふのです。

夫人 ですがね、大統領といはなくてはいけません。

スウザン 覚えられるかしら。

夫人 やつて見なくては。

スウザン えい、それ無論ですが。

夫人 それから、お客様がいらしたら、こちらへお通しするのですよ。

スウザン はい。恰度御婦人が一人お待ちです。

夫人 ちや、なぜ、さう云はないのです？

スウザン 云はうと思つてた時に、奥さまがリンカーン——いえ、大統領、のことをおはなし初め

なかつたので。

夫人 よろしい。御案内しな。

スウザン行く。夫人は書簡臺を閉ぢる。スウザン歸る、ゴライヤス・プロウ夫人を案内して。

スウザン ゴライヤス・プロウ夫人。

プロウ夫人 今日こんにちは、奥さん。

夫人 今日こんにちは、奥さん。おかけ下さい、どうぞ。

兩人坐る。

プロウ夫人 大統領さんはお變りはございませんか？

夫人 はい、少し疲れましたやうで。

プロウ夫人 さうでせうよ、勿論。此怖ろしい戦争。けれど、戦争にお倦きではありませんまい、
あの方は。

夫人 ひつきりなしの心配でしてね。非常に深く責任を感じて居ります。

プロウ夫人 さうで御座いませうとも。ですがあなたは、戦争疲れおさせしてはいけませんよ。

あんな南部の怪物ばけもの達は踏みつぶしてしまはなくちや。

夫人 大統領の強硬なことは、御心配には及ぶまいかと存じます。

プロウ夫人 えい、勿論さうですよ。昨日もね、良人たくにさう云つたことなのよ、「大統領はとて
も降参はしませんよ。南部の人達に悲鳴をあげさせるまでは」つて、そして良人たくも同意見な
のです。

スウザンはいる。

スウザン 奥さま、アザリ夫人がお見えでした。

夫人 お通しして下さい。

スウザン行く。

プロウ夫人 おゝ、あのいやあな女！ 屹度戦争を中止したがつてるのよ。

スウザン 「月口にて」アザリ夫人。

アザリ夫人はいる。スウザン行く。

夫人 今日こんにちは、奥さん。あなた、ゴライヤス・プロウ夫人を御存知？

エブラハム・リンカーン

アザリ夫人 えい。今日は。

彼女は坐る。

プロウ夫人 良人はいふんですよ、戦争は少なくとも、もう三年は續かうつて。

アザリ夫人 三年？ おつそろしいこと、さうではありませんか？

プロウ夫人 わたし共、犠牲をする支度をしなくてはなりませんわ。

アザリ夫人 さうです。

プロウ夫人 あの奴等のことを考へると、私の血は沸えくりかへるやうですわ。

アザリ夫人 私ももとは、あの人達のうち多勢知つた人がありました。中には大層親切な良い

人もありました。

プロウ夫人 それが狡い^{こづかい}のよ、ほんとに。私共の間にも、随分と不忠義なことがありはしない

かと思ふのです。此午後、大統領さんにお目にかゝれませうか？ 奥さん。

夫人 ほどなくこちらへ参ります。

プロウ夫人 あなた、ほんとに御丈夫相ね、あんなにいろ／＼難かしい仕事をしなくてはなら

ぬのに。私などははや一つ二つやめちまはなくてはならなくなつたのです。それに費用は段々嵩んでくるし、何もかも陰氣ですわねい、さうお考へなさらなくつて？ 良人も私もね、やむなく随分と澤山豫約購讀を減らしたのですのよ。けれど、勿論、誰だつて、何か犠牲を拂はなくては。あゝ、大統領さん、今日は。

リンカーンはいる。婦人達は起立して彼と握手する。

リンカーン 今日は、皆さん。

アザリ夫人 今日は、大統領さん。

皆々着席。

プロウ夫人 それで、何か喫驚するやうな報道がございますか？ 大統領さん。

リンカーン 奥さん、私は毎朝起上る時、自分で自分にいひます、今日は、百人、二百人、いや千人のわが國人が殺されるだらうと、それが喫驚することです。

プロウ夫人 おゝ、さう、勿論、それに違ひありません。ですけれど、私のつもりは、何か良

い報道がといふのです。

エブラハム・リンカーン

リンカーン あります、捷利の報道があります。敵は二千七百人を失ひ——味方は八百人を失ひました。

プロウ夫人 偉いはねい！

リンカーン 三千五百人。

プロウ夫人 おゝ、ですが、そんな風に云つてはいけませんわ、大統領さん。關係するのは八百人きりですもの。

リンカーン 奥さん、世界はあなたの心臓よりも大きいですよ。

プロウ夫人 あら、大統領さんが又へんなことを仰有られますわ、奥さん。

スワザンが茶盆を持込み、ぐるつと茶を渡す。リンカーンは飲まない。スワザンゆく。

アザリ夫人 大統領さん。

リンカーン 何です、奥さん？

アザリ夫人 私は御親切に甘えますことは好みませず、何もかもどんなにか御困難であらうと、それも承知して居りますが、まあ、好い機会だと思ひまして、一つお訊ねしたいことがあります。

ますのですが？

リンカーン どうぞ、何なりと、奥さん。

アザリ夫人 此戦争を中止することは、あなたのお力にも及ばないのでせうか？ 悩んでゐる國の名を以て、それをお訊きたいのです。

プロウ夫人 まあ、そんな質問、考へたこともありませんわ。

リンカーン 全く正しい御質問です。奥さん、私はいつも、たつた一つの事を考へてゐるばかりです——どうしたら此事が中止できるかと。しかし吾々は合衆聯盟の完全といふことを保証しなくてはなりません。二ヶ年間に、戦争は私にとつて、一刻々々苦さを増すものになりました。私は誰に劣らず悩んでゐるものであると信じます。しかし、之も忍ばなくてはなりません。二年前、開戦の理由は正しい大義であつた。今とても變りはありません。

アザリ夫人 あなたが、けだかく、寛大な方だといふことは存じてゐます。しかし、戦争はどんな場合にも、どんな名分からでも、不正に相違ありません。

プロウ夫人 大統領がこんなお話を何度もお聞きになると、元氣をなくさせられるばかりでせ

うよ、大方。

リンカーン その御懸念は無用です、奥さま。……奥さん、私も戦争は不正だと思ひます。で、こんな不正なことをもありえさしめるのは、人間の弱さ、嫉妬、愚痴です。だが、吾々はみな弱く、嫉妬ぶかく、愚痴なのです。それが此世なのです、奥さん。で、吾々は此世から逃げかくれる事はできない。吾々のうちの最も悪い者は、氣むづかしく、我武者羅でさへあるものもある——いはゞ間拔な、強慾な海賊だ。そんなのからはすつと發達してゐる者もある。しかし、吾々のうちの最上の者も、若し説伏せても聞かれなければ、その我武者羅、侵略に抵抗しようといふ本能を有つてゐる。それは悪い本能だと、かう仰しやるかも知れない。果してさうか？ 兎に角その本能がある、幾百萬の善人のうちにある。それは必ずしも悪い本能だとは私は信じない。世界は徐々に知慧を得るようになるに相違ないと私は信ずる。吾々我武者羅を惡むものこそ、いつも、熱心に、そのいけないことを説きすゝめ、そして、次第次第に彼等が聞入れるようになるのを、望むべきだと思ふ。しかし、さうかうするうち、我武者羅連中が、吾々の抵抗本能を強制して、どうしても起たざるを得ぬようにする危機が來

る。その時、吾々は敢然として起ち、勇氣のうちにも、此事の重ねて起らざらんことを、いつも祈らなくてはならぬ。それから又、振返つて、二度でも、三度でも、四度でも、説勸めることに力を致さなくてはならぬ。此武力に訴へることは不完全な世界の惡事です。だが、吾々は不完全だ。世界を淨める努力も必要だが、自分が世界に立優つて純潔だと考へてはなりません。私が此事を決定しなければならなかつた時「いや、こんな事は御免を蒙る。之は惡だ。こんなものに觸れたくない」と、かう云ふのは容易だつたのです。しかし、それでは、何事も決定されなかつたであらうし、その上只今お話ししたやうに、私は眞理だと信じたものを見たのでした、奥さん。もの寂びしい頼りない事です、誰にしても、此責任を胸に抱くのは。私の見ることは、間違つてゐるかも知れん、しかし、まづこんな風に見るのです。

フロウ夫人 全く同意見です、大統領さん。あの南部の獸類共に見知らせてやらなくては、ただ、あんな奴は、殺してしまふ外に、教へてやれるかどうか、問題ですけれども。良人ではさう云ふんですよ。

リンカーン 御良人でもかなり年をとられたでせうな？

プロウ夫人 いゝえね、良人はまだやつと三十八なのですよ。

リンカーン ほんとう？ 今？ 現役が願へるかも知れん。

プロウ夫人 おゝ、いえ、良人は離せないんです。政府の請負をやつてゐるのですよ、そら。絶対に行けません。あなたが戦争を中止したがつてゐる人のことで、お話しなすつたことを聞かせますと、屹度喜びますわ。アザリ夫人も御満足でせう。無論誰にだつて不平はありません。吾々は皆犠牲を拂はなくつちやと、今もアザリ夫人に云つてたのですよ。

アザリ夫人 大統領さん。いろ／＼お話し下されて有難うございます。私もそのことを考へて見なくてはなりません。しかし私はいつも戦争は不正だと信じてゐました。私は倅に出征かせたくなかつたのも、悪いことだと信じてゐたからです。けれど、倅はゆきたがつて。先週之が参りました。

彼女は一枚の書札をリンカーンに手渡す。

リンカーン 「それを見し、起立し、そしてそれを返へす」奥さん、一ト言も口に出さない方がよい時があります。お愁傷しいことです、お愁傷しいことです。

アザリ夫人 「立上り」どれ、失禮いたしませう。いろ／＼申しまして、お氣にさへられませねば。

リンカーン 私共は皆憐れむべきものです、奥さん。私のことを悪く思はないで下さい。「彼女は彼女の手を握る」メリイ。

リンカーン夫人はアザリ夫人と一緒に出てゆく。

プロウ夫人 勿論お氣の毒なことですわ、お可哀相に。しかし、あんなつむじ曲りの考へをして、難儀を一層難儀にするだけです、さうではないでせうか？ それから、大統領さん、あの汚らしい賊軍が、二度と頭の擧げられなくなるまで、あなたが弱りこむ徴候をお見せなさぬことを望みます。良人は申しますのです、今後彼等を一切假借しないでいふ宣言を出しになるべきだと。私はあんな奴に決して二度と口を利きませんわ、屹度。「立上り」さ、参りませう。出口で奥さんにお目にかゝりませう。左様なら、大統領さん。

彼女は戸口で振むき、手をリンカーンにさし伸べすが、彼はそれを執らない。

リンカーン 左様なら、奥さま。そして私は一言御注告申したい。あの氣の毒な婦人は、私に

自分の考へを話してゆかれた。私は賛成はできないが、尊敬はする。間違つてはゐても、氣高い人だ。あなたもお考へを話された。あなたにも賛成しないし、そして私はあなたや、あなたのやうな人を恥かしく思ふ。あなたは自分では何の犠牲も出さないで、他の者の征服につとめてゐる間に、南部を滅ぼせのなんのと、空談ばかりなさる。私は此戦争を痛ましい心を以て迎へました。毎日々々此胸は割けんばかりの思ひがする。私は人道の名に於て、正しい慈悲の處置を期し、地上に愛と惻隱の希望をもつて、私は此戦争を迎へた。それにあなたは私のところへ來て、復讐だの、滅亡だの、悪意だの、永久の憎惡だのと、いはれる。あの柔和人達も間違つてはゐるが、清く間違つてゐる、偉大なものゝ名に由つて間違つてゐるのです。あなただ、吾々の擁護してゐる此大義名分を汚すのは——あなただ、此戦ひを以て卑劣な、小さなものにしたのは。左様なら。「彼は戸を開ける。プロウ夫人は、返へす言葉もないので出てゆく。リンカーンは室を横切つて、呼鈴を鳴らす。寸時の後にスウザンがはいる」スウザン、あの婦人が二度と茲へ見えたら、あの人は不時ぬ災難に逢ふかも知れないよ。

スウザン はい、かしこまりました。それだけでございますか？

リンカーン いや、かしこまりました、それだけでございますかではない。わしは此上衣が嫌ひぢや。着換へる。一二分で戻つてくるから、若しウイラム・カスチス氏といふ紳士が見えたら、茲で待つてゐて貰つて下さい。

彼は出てゆく。スウザンは茶道具を片づける。彼女が戸口のところへ行くと、物靜な、嚴肅な白髪ユグロの黒奴が彼女に面してぬつと現はれる。スウザンは烈しく喫驚する。

黒奴 「彼はのろくと又願ふものヤハラ和かに口を利く」よろしい、大丈夫。

スウザン はれま、夜でもないに、一體どなたです？

黒奴 ウイラム・カスチスです。リンカーンさんが、こちらへ尋ねて來いと云はれる。誰も止める者がなくて、探しに來ました。

スウザン あなたがウイラム・カスチスさんですか？

カスチス はい。

スウザン リンカーンさんはほどなくこちらへ參られます。上衣を着換へていらつしやるので、おかけになつたらいいでせう。

カスチス はい。「彼は腰を下ろし、一個悲哀な物珍しさの心で、自分のまげりを見る」リンカーンさんが茲にお住ひじや。あなたお女中か？ 結構なことじや、若いお娘子がリンカーンさんのお女中になる。

スウザン えい、双方とも不足なく圓滿にやつてゐます。

カスチス えらく悪いですぜ、南部で奴隷になるのは。

スウザン ねい、あんたカスチスさん、わたしと奴隷と一緒にちやにしないで下さい。

カスチス いや、あんた奴隷でない。あんた女中、しかしあんた自由民。それは偉いことじや。氣の毒な女中、自由に生れて。

スウザン さうです、自由です。けれどわたしを憐んでゐるのではないのですか、氣の毒な女中だなんて？

カスチス 憐れむ？ いや、あなたと偉いと思ひます。

スウザン ど偉いとはなんのことか、私は知りません。けれど間違はないように願ひます。白^{ハウス}聖^{ハウス}雨^{ハウス}まで出世するのは百人が百人でないんだから。

カスチス 百人が百人ない、自由な人。だからあなたと偉い

スウザン 私はそのことなんか、あまり考へたことはありません。

カスチス わたしはいつもそればかり考へます。

スウザン あなたは自由なんでせう、ちやないんですか？

カスチス 自由です。だが、自由に生れたのでない。黒奴の餓鬼の時、撲たれましたよ。母を

見たが——いや、わたしの見たことは思出したくない。

スウザン お氣の毒ねい、カスチスさん。それこそ不正だわ。

カスチス さうです、不正。

スウザン その黒——いえ、黒人の方はみなあなたのやうですか？

カスチス いや。わたしは多少便宜な點を有つ。便宜な點有つ者は、多勢ない。

スウザン 成程、さうでせうねい。をや、リンカーンさんがいらした。「リンカーンは心ゆくまゝの上衣を着用し、月のところへやつて来る。カスチス起立する」此方がおはなしの方です。

彼女は盆を持って出てゆく。

リンカーン カスチスさん、之はお初めて。

九二

彼は手を差出す。カスチスはそれを取つて、將に接吻せんとする。リンカーンは靜に彼を制止する。

「坐しながら」おかけなさいませんか？

カスチス 「手に帽子を持つたまま依然として立つてゐる」お招き下され、有難うございます。

リンカーン 御辭退なされぬかと心配してゐました。

カスチス ちとはにかむ？ さうです、けれどあまりお勧め。仕合せと参りました。

リンカーン どうぞおかけ下さい。

カスチス 禮儀？

リンカーン わたしも坐れないから、あなたが坐らねば。

カスチス 黒は黒。白は白。

リンカーン 莫迦な。たゞ老人二人、一緒に坐り（でカスチスはリンカーンの身振りに應じて坐る）——そして一緒に話す。

カスチス わたし、リンカーンさんより、年取つてゐますな。

リンカーン さうでせう。私は五十四歳。

カスチス わたし七十二。

リンカーン わたしが七十二になる時にも、あなた位若々しく見えたいものですな。

カスチス 冷水。うんと歩く。エス・キリスト様信仰。子供の時教はつた小さな藥草いつも用ひるリンカーンさん、試めし、大變よろし。

彼は小さな紙にひねつたものをリンカーンに手渡す。

リンカーン いや、之は洵に忝けない。大きに有難う。カスチスさん、あなたの御説教の噂も度々聞きました。

カスチス はい。

リンカーン 私もお聞きし度いと思つて居ります。

カスチス リンカーンさん、わが人民の大恩人。

リンカーン 私もう／＼決斷しました。

エブラハム・リンカーン

九三

カスチス 決断？

リンカーン 奴隷賣買は繼續してゐる。吾々はそれを制限しようといつても決心してゐた。今や廢止せられる。

カスチス あなた屹度？

リンカーン 屹度です。

カスチスはそろ／＼立上り、首を垂れてお辭儀をし、又坐る。

カスチス わたしの人民、學ぶべきことが多い。何年も何年も、何年も。無學な、びく／＼する、疑ひぶかい人民。困難でせう、非常にそろ／＼と。「次第に情熱昂ぶり」しかし、自由に生れた人。自由。わたくし奴隷に生れ、リンカーンさん。奴隷に生れないもの、誰もわからない。

リンカーン さうです、さうです。私にはわかる。

カスチス 「平生の規則正しさに違つて」さう信じます。はい。

リンカーン どうぞ質問がありましたら、何なりとお訊ね下さい。

カスチス 少し訴へがあります。多分わたし理解しない。

リンカーン お話し下さい。

カスチス 南部の兵士、ある黒人を捕虜にします。あなたの制服着た黒人。彼等を捕虜にします。それから虐殺します。

リンカーン 知つてゐます。

カスチス 何しますか？

リンカーン 抗議を申込みました。

カスチス 駄目。もつとしなくては。

リンカーン それ以上どうできますか？

カスチス あなた知つてゐる。

リンカーン 知つてゐます、けれど復讐の虐殺を私に頼んではなりませんぞ。

カスチス 「輝きながら」目にて目を償ひ、齒にて齒を償ふ。

リンカーン いや、いや。あなたは考へなくてはならん。何をいつてゐるのか考へなさい。

カスチス 私は、虐殺された黒人のこと、考へます。

リンカーン よもや私にも虐殺しろとお頼みではあるまいが？

カスチス 刑罰だ——虐殺ではない。

リンカーン いや虐殺だ。自分でない他人のしたこのために、冷然とその人を殺すなどのことが、どうして私にできよう？ 續いて起ることを考へなさい。吾々こそ偉大な實例を示さなくてはならん、悪人のあとを追ふ法はない。あなたもさう信ずる、どうです？

カスチス 「間を置いて」 知つてゐます。さうです。あなたの光を、人々の前に輝かせ下さい。リンカーンさんを信じます。今後も屹度信じます。間違つてゐました。私の人民、あまり氣の毒だつたから。

リンカーン これを記憶えてゐてくれますか？ 私は一ヶ年以上も、毎日々々あなた達のことを考へてゐました。あまり考へるので、疲れた物憂い人間になつてしまつた。しかし忘れはしない。それは約束します。

カスチス あなたは偉い親切な恩人。私、屹度あなたを愛します。

更にノックがある。

はい。

スウザン入る。

スウザン 士官の方がみえました。重大な用向だと云はれます。

リンカーン すぐ行きます。「彼とカスチスと共に立上る」待つてゐて下さい、え、カスチスさん？
二三お訊ねしたいことがあるから。

彼は出てゆく。段々暗くなる。スウザンはランプに點火し、窓掛をひく。カスチスはリンカーンのあとを眺めて戸のところ立つ。

カスチス まことに良い人。

スウザン それが解りましたか、え？

カスチス あなた、白人の娘さん、あの人を愛しますか？

スウザン 勿論です。

カスチス さうだ、さうなくてならん。

エブラハム・リンカーン

スウザン あの人こそ眞の白人です。勿論、悪意でいふものではありませんが。

カスチス ちつとも悪意はない。あの方のお話ぶり、黒も何もないやうだ。

スウザン けれど、よろしいか、カスチスさん、お聴きなさい。あの方は此戦争で、生命を取られますよ、あの方の心情はそんなのです——世間で云ふ毛を剪れた小羊のやうな。

カスチス ほんとに、不仕合せな戦争。

スウザン けれどあの方の仰しやることは正しいと思ひます。きまりのつくまで、続けなくてはならん。

下の街路で、一團の人が、『ジョン・ブラウンのなきがらは』を歌ひながら來るのが聞える。カスチスとスウザンは謹聴して立つてゐる。それが通りすぎて消えて行く時、スウザンは合唱に加つて歌ふ。

暮が下りる。

第一の史家

吾等の時は不變。

なほ遙けく

道は孤獨に、

堅忍不拔の拂ふ債は

いよゝ難く又重し。

第二の史家

反くもの、捨つる者、

しかも不問のまゝ、彼は行く、

孤獨の思ひをもち、

此思ひをこよなきものにする彼は。

兩人同聲

吾等、此高き心を頌揚し、

此不惑の達觀を讚美し、

ゆきすぎの偉大ををろがまんとき、

吾等のみづから偉大なり。

第四景

同じころ。オシントンに於ける内閣會議。スミス去り、キャメロンに代つて、エドウィン・エム・スタントン陸軍大臣たり。シワード、チェイス、フック、ブレイヤ、及びウエルズ舊の如く、他に閣員の變化なし。卓を圍んで、それ／＼席につき、リンカーンの椅子だけ、あけてある。

シワード 「はいりながら」今恰度召集を受けたところだ。何か特報でもあるかね？

スタントン ある。マクレランがアンチイタムでリイを敗つた。吾々の最大の成功さ。敵にこの恢復のできる筈はない。潮の變り目だ。

ブレイヤ 大統領に逢つたかね？

スタントン 今まで一緒にゐたのだ。

ウエルズ 何といふね？

スタントン 『遂に』と云つたきりさ。すぐこちらへ見える。

フック 又例の宣言を議題にすることだらう。僕の意見では、時機を得てゐない。

シワード 何しろ、大抵もう分つて來た、大統領は吾々のうちの最上の人だといふことが。

フック 到るところに反感もかなりあるやうだ、僕の見るところでは。

ブレイヤ 彼れこそ唯一の人だ、此仕事をするに足る人格を有つてゐるのは。

フック 別様の意見を有つてゐるものもある。

シワード 成程あるはある、しかし此席にはゐない、必ず。

フック 何ともいへない。しかし、君に訊ねる、大統領は奴隷解放だなんて、何のつもりなの

エブラハム・リンカーン

か？ 僕の今日まで理解するところに由れば、吾々が、爲めに戦つてゐたのは合衆聯盟である、奴隷廢止は適當な時期を待つて、之を法律となすべく吾々の心に保留して置く筈だと、かう理解してゐた。然るに今や彼は、今日解放はその唯一の緊要事件であるかの如く語り、そして翌日は、その考へを全部放擲しても、しかする事に由て平和を保ち、合衆聯盟を確立するを得ればそれでいゝ、とかうでも云ふかのやうに述べてゐる。一體吾々はどう考へたらいゝのか？

シワード いや、それは君の間違ひだ。今でも彼に取つた合衆聯盟第一である。ところで、奴隷に關する彼の意見に就いてはもとより問題はない。それは君も完全に知つてゐる筈だ。しかし彼は奴隷についての政策をば、その心のうちに自由に保留し置き、之を合衆聯盟の爲め最善と思ふがまゝに指導しようと、いつもかう考へて來たのだ。君は彼の演説を記憶してゐるだらう、『若し奴隷を開放せずして、而かも合衆聯盟を救ひ得れば、私はさやう致さう。若し全部の奴隷を自由民となして之をなし得れば、私はさやう致したい。若し一部の奴隷を自由にし、他は現状のまゝにして之をなし得るとすれば、それでも私はさやう致したい。此の

争ひに於ける私の最高至上の目的は、合衆聯盟を救ふことにある。』これより明々白々なことはあり得ないではないか、恰度、時ければ奴隷を解放しようと云ふ彼の決心の明々白々あるが如く。

フック 兎に角、或人々ならもつと違つた行動を執つたらうよ。

ブレイヤ ところで、君、あれほど賢明に行動を執つたものは他に何人もあるまいから。

スタントン 僕も大統領と一から十まで同意見ではない。しかし僕が苟くも同意見たり得る唯一の人はあの人だ。

フック 今時^{いまとき}あの宣言を發布する——そして屹度そのことを提出するつもりだから——見てゐ給へ、それこそだ、輿論を明白にして置く必要の最もなる此際、却てそれを混亂させることにならうから。

ウエルズ 君、その宣言の發布を今回提出されるだらうといふのは確かかね？

フック 確かどうか、まあ見てゐ給へ。

ウエルズ 提出されれば、僕は賛成する。

シワード 君、リイの軍勢は四分五裂かね？

スタントン いや、まだ——しかし重大な危険状態にある。

フック 大統領はどうして来ないんだらう？ 此特報も畢竟些細な事たる感を起こさせるね。

チェース 實のところ、僕は大統領が此事について何といふか、それが非常に知りたいんだ。

一書記官入る。

書記官 大統領の御挨拶、大統領はちきにこちらへ参られます。

彼はゆく。

フック 問題がもちあがれば僕は反対だ。

チェース そのことは何も云はれないかも知れない。

シワード 云はれると僕は思ふ。

スタントン 何にしても、危機だ。

ブレイヤ あ、おいでだ。

リンカーンは小さな本を携へてはいる。

リンカーン お早う、諸君。

彼は自席につく。

諸大臣 お早う、大統領。

シワード 吉報、ださうですね。

フック 今暫し事の進行するまゝに之を軍隊に一任して置けば、吾々は當然此難問題の解決を見る筈ですな。

リンカーン 諸君、まことに亢奮の朝です。私みづからも稍亢奮を覚える。どうも私の心は亢奮してゐては最上状態にあるといへない。御免下さいよ。「彼の書物を開きながら」我々皆の心を落付けるかも知れない。アルテマス・ワード氏の近作です。

彼がアルテマス・ワードの次の數句を讀む間に、諸大臣は上機嫌の忍耐と面白といった心持で聽するが、只例外はフックで、焦立つ心を更に隠くさうとしない。そしてスタントンも同様だが、フックの不行儀を面白からず思ふ爲めばかりにさうしない。

エブラハム・リンカーン

「ユチカに於ける横暴なる不法行爲。」

一〇六

「一八五六年アキ、ユチキイにて見世物をケンブツに共す、ニュー・ヨーク州の眞事に大なる市なり。人々それがしを丁寧ていねいに勸すすげし、新聞紙もなか／＼賞讃す。いち日。それがし、例の美しき口長くちまうにて、毛物けものまた蛇の類を説明しあるに、何たる卑ひむべくなげかはしきことか、一人の長大なる無らい者あらはれ、それがしが主の最後の晩餐の臘人形ろうにんぎやうを置けるカゴにつかつかと近づき、イスカリオテのユダの足を促え、彼を地上に引すりだしたり。それから彼はカ一パイにそれをうちくだき初めたり。

「お前、一體、何をするのだ」とそれがし叫びたり。

彼曰く、「何のために手前は此卑京未レンなる野郎をこゝへもつて來たのか？」と、而して彼は又件の臘人形の頭に古今無双のダボクを加へたり。

それがし曰ふ、「汝、滅法界めつぽうがいなるトン馬かな、此不信のみ弟子を形どれる臘人形を曝露するとは。」

彼曰く「手前がさう云ふのもそれは尤もだ、だが、聞け、ぢぢい、イスカリオテのユダが

な、此ユチキイに面だして、コン畜生、何のトガも受けしないで、無事にけえすわけにはゆかないんだ」と、かく云ふて彼はユダの頭に穴ぼこを造りたり。此青年はユチキイ市の第一等の家のものなり。それがし彼を告發せしに倍審官ばいしんは第三等放火犯の評ケツせり。」

スタントン どうでせう、國事を議しては？

フック 然り、賛成。

リンカーン フック君は、然り、賛成といはれる。

スタントン 有難う。

リンカーン いや、いや、フック君にお禮をいひなさい。

シワード マクレランがリイを追撃してゐると想像します。

リンカーン 君は随分と想像する。しかし、マクレランがリイを追撃する機會を得たのは之が初めてだ。で、これが敵も最後に近づいた第一の徴候ぢや。若しマクレランが此機會を捉へ得なかつたら、グラントを送つて一ト仕事させう。少しは遷延するが、それは構はない。統率權たいりやくはもう代變りぢや。

ブレイヤ グラントは酒飲みで。

リンカーン では何印が彼れの好か云つて貰ひませう。先方へ幾樽か送つてやらう。彼は數多の捷利を得た男だ。

フック 他に用件がありますか？

リンカーン あります。數週前、私は諸君に、奴隸全部を開放する宣言書の草稿をお見せした。

フック 「ウエルズに傍白」 そら、云つただらう？

リンカーン 其時諸君は、之を發表するの時期ではないと考へた。私も同意した。今や其時が來たと私は考へる。今一度讀みませうか？

「耶蘇紀元一千八百六十三年一月一日以降、各州内に奴隸として保有せられたる者は一切永久に自由たるべく、之に反く者は合衆國に對し叛虐を企つるものたるべし。右宣言す。」
それで今日からまだ三ヶ月の餘裕がある。別の草案には賠償に關する條項があります。

フック 私は、此時期に際し、最も無制限なる條件に於て、かくの如き宣言を發布することに反對せざるを得ません。此問題は、吾々の勝利の完全なるまで、保留すべきであります。今

日之を提出せば、吾々が最も多く統一を要する時期に當り、却て不和反目を招くことになりませう。

ウエルズ 大統領、あなたが今こそ最も適切なる時期だとお考へなされる理由を、私は充分に理會いたしません。

リンカーン どうぞ、諸君、私は私の力の及ぶかぎりの熱誠と理會力とを以て、此事件を考慮したことを信じて下さい。

フック ですが、六ヶ月以前、ニュー・ヨーク・トリビューン紙が、一つの鮮明なる宣言書を以て起つようあなたに勸告した時、あなたはそれを叱責なされた。

リンカーン 時期でないと思つたからです。箒星を禁止する羅馬法王の勅令のやうに、行はれ難い聲明を發布しても、それは當時無益であつた。爾來私の義務はです、少くとも私に取つては、一つの主義とするところに忠實であること、並に、間違つた時に之を行爲に發表して此主義を裏切るまじきこと、これであつた。これが私の理解する政治である。久しき間、私は二個の堅い決心を有つてゐた。合衆聯盟を擁護すること、及び、奴隸制度を廢止することの

一二つ。いかにして此合衆聯盟を擁護すべきか、私はいつも明白であつた。そして二年以上の艱苦の間に、私の視力を鈍くすることはなかつた。吾々は合衆聯盟のために戦つて來た、そして今や此聯盟のために勝利を得つゝある。いつ、いかなる方法で、奴隷廢止を宣明すべきか、私は絶えず躊躇逡巡した。しかし、最早決して躊躇逡巡しない。數週前私はそれを明白に見た。よし——私は自問自答した——叛軍メリイランドより驅逐せられ、そして、捷利は結局吾々のものであることが世界に向つて明白となるや否や、その時こそ、此捷利を發表し、そして新に保證せられた合衆聯盟と共に、奴隷廢止は來るといふことを聲明するの時だと。私は此約束を、私みづからに——又私の造物主なる神様にしました。叛軍今や驅逐せられてゐる、そして私は此約束を果さうとするのである。私は此重大な事件に關し、諸君の注告を望まない。是については、私は、みづから既に決心したのでから。かく云ふとも、決して諸君のどなたに對しても、敬意を拂はぬわけではありません。しかし、どうぞ、此事に關し、皆さん私の味方とならんことを、切にお願ひします。

フック 私の意見では、全然あまり急劇です。

リンカーン 今一つ私の管見を述べませう。私はよく存知てゐる、他の人が、此事件に於ても他の事に於けると同様、私よりも遙か手際よくやり得る、それから、若し天下の信任が、私によりも、その有能なる一人に、より充分に置かれてあることを私が得心でき、そしてその人をして私に代らしむべき憲法上の何等かの手段が見出されれば、その人は當然代つて此位地を取るべきである。私も喜んで之をその人に譲ります。しかし、私はよしや學國一致の信任を要求できぬまでも、すべての點を考察して、私以上の信任を擔つてゐる人があるとは思はない。且つ、それは兎も角も、私の此位地に他の何人をも代らせる方法がない。私は此位地に連つてゐる。能きるだけの最上を盡し、私が取るべきだと感ずる道を取るの責任をみづから擔ふの外はない。

スタントン 暫く考慮する餘地はありますまいか。

チエース 此瞬間に於ける吾々の唯一の大義は、合衆聯盟の保全であることを、吾々は記憶すべきだと感じます。

フック 全然同感。

リンカーン 諸君、吾々は歴史を避けるわけにはゆかない。此政府に列する吾々は、否が應でも長く記憶せられる事になる。個人上の有名だとか、有名でないとかで、吾々のうちの甲若くは乙が、それをのがれるわけにゆかない。奴隷に自由を與へて、由て以て吾々は自由民に自由を保證するのである。吾々は地上に於ける最後の又最上の希望を、け高く救ふか、さなくば卑く失ふかであらう。「彼は宣言書を自分の前に置く」「一切永久に自由たるべく。」諸君、諸君の援助を懇望します。「彼はそれに署名する」

諸大臣は起立する。シワード、ウエルズ、及びブレイヤはリンカーンと握手して出てゆく。スタントンとチェースとは彼に頭を垂れてお辭儀をし、人々の後を追ふ。フックは起立する最後の者であつたが、何のしるしもしないで去らうとする。

リンカーン フック。

フック 何ですか、大統領。

リンカーン フック、いろいろのことを聞かぬわけにゆかないのでな。

フック どうぞ今一度。

リンカーン フック、ある人々のよくする法だが、不快な事を云はれると、聞えぬふりをしてそれを繰返へさせ、その人を當惑させようとする。有效なことも度々あるが、わたしは容易には當惑せん。かういつたのだよ、いろいろのことを聞かぬわけにゆかないつて。

フック で大統領、私はその意味が諒解できないのです。

リンカーン さ、フック、外に誰も居らん。リンカーンといふのは相應通りの好い名だ。もう解つたらう。

フック どうしてです？

リンカーン では率直にいふ、陰謀が企てられてゐるのだ。

フック 政府に反對してですか？

リンカーン いや、政府のなかで。わたしは反對して。

フック 批評でせう、大方。

リンカーン 何の目的で？ わたしの遺口を改めさせるためか？

フック 思ふにそれが目的であります。

エブラハム・リンカーン

リンカーン では、なぜ、かくくだと私に云はないのか？

フック をのづからに済まないと思ふ心からと想像します。

リンカーン それとも野心か？

フック 野心とは？

リンカーン 君は君が私の地位にあるべきだと思つてゐる。

フック よく御存知です。

リンカーン 君が私の位地にあるべきだと、百人が百人思はない理由を、君は想像し得ないのだ。

フック いかなる権利で左様なことを仰しやる？

リンカーン ほんとはではないか？

フック あなたは私の準備してゐないところを襲ふのだ。私の不利な状態にあるときに把へるのだ。

リンカーン 君はよほど用心深い人のやうに口を利くね、フック。

フック あなたは私の名節に疑問を挟まれるのですか。

リンカーン 何とでも。

フック では辭職します。

リンカーン えいと、不服な點はその……？

フック あなたの疑念に不服です。

リンカーン 嘘ではないかね？

フック よろしい、率直に述べます。私はあなたの判断力を信じません。

リンカーン どの事で？

フック 一般に。あなたは奴隷廢止を強調し過ぎる。

リンカーン 君のつもりはさうではあるまい。君は廢止反對の世間の感情を怖れるといふのだらう。

フック 世間は勸告すべく、強制すべきではありません。

リンカーン 世間のうちの最も價值ある分子は悉く勸告すみであるのだ。ただ器局の狭い分子

が一番やかましい。そして君はその分子の事ばかりを聞いてゐる。君は「廢止論者」といふ怖ろしい名を呼ばれると、逃出してしまふのだ、それが、どこから見ても唾棄する外ないと君も承知してゐるやうな價ない人間から呼ばれても。

フック あなたは、私の意見では、叛虐の個人的刑罰を述ぶるに當り、必要な堅固さといふ點で全然失敗したと思ひます。

リンカーン これは堂々たる戦争だ。血を流す復讐行爲となることは到底許せない。

フック 吾々は大逆罪と戦つてゐるのです。之に對應するに峻烈を以てせねばならん。

リンカーン 吾々は大逆罪を打ち敗る。そしてそれに對するに和解を以てしよう。

フック そんなのは腰抜けの政策です。

リンカーン 信仰の政策——側隱の政策だ。「情をこめて」フック、君はなぜこんな嫉妬心を以て私をうるさく惱ますのか？ 以前にも一度、閣員のうちで私に隠れて事をしようとした者を發見したことがある。しかし其男にはみづから利するの心はなかつた。たそしてうつくしく改悛した。然るにフック、君は今日の重荷をば、却て君の心を片意地にする種にしてしまつた。わ

しはみんな知つてゐる。君が權勢を得んが爲めに、計畫み又計畫むのを、ちつと注視めてゐた。わしは孤獨の男だから、ひとり心に痛みを抱いてゐた。神様が私の手に託ねられた勞役は洵に大きく、わが日は洵に少ない。私の最も深い心の飢渴は、私自身の家に忠誠を得たい、裏切る者のないやうにといふことにある。それを君は私に拒んだ。君は君の官職にあつて、非常な奉公もしたが、又嫉妬深くもなつた。今君は辭職を申出る。丁度前にも一度、私が友情を以て心を開いて君に懇談した時にも申出たやうに。君は今度も私が君をへつらひ、君の止まることを懇望するだらうと思つてゐる。私はさうすべきだと思はない。又さうしたくもない。君の言葉通りに受取る外はない。

フック 満足です。

彼は行かうとして振りむく。

リンカーン 握手は？

フック どうぞお許し下さい。

彼はゆく。リンカーンは寸時黙つて立つてゐる、旅なれた、孤獨な船長。彼は呼鈴を鳴らす。書

記官はいる。

リンカーン　ヘイ君に来て貰つて下さい。
書記官　はい、かしこまりました。

彼はゆく。リンカーンは彼の衣囊の折目からいま一冊の書物を取り出し、開けないで持つてゐる。
ヘイがはいる。

リンカーン　今日はちと疲れた、ヘイ。少し私に読んでくれ給へ(彼は手にした書物を渡す)「あ
らし」——君は例の句を知つてゐる。

ヘイ〔読む〕

吾等が饗宴はもはや果てた、此俳優どもは、
かねてお話し申せし通り、みな精霊、

大氣のうちへ、薄き大氣のうちへ、流れこむ。

此幻影の根なき構造に似て、

雲に沖る高閣も、豪華を極めし宮殿も、

莊嚴無比の堂塔も、此大地球そのものも、

いや、大地のうけつぐ萬物も、皆消散し、

この空ある壯觀の消えしが如く、

あとには残る片雲もなし。

我等は夢と同じ材よりなり、

此のさゝやかなる一生は

眠りを以て終始する。

リンカーン　我等は夢と同じ材より成り、此さゝやかなる一生は……
幕下りる。

第一の史家

又二年、

戦の荒廢、長き論争、

人々の獻策と祈願、

破壊の惱みと愚かなる憎み、

虚偽と争ふ虚偽の汚辱、

それ等はおのづから力盡きんとし、

かの四年の前、

言葉の必ず充たさるゝを知りて

その孤獨の海圖を定めし頭腦は

今や來れり、

慈悲と友誼ともて

計算をはたし、
和解し又建設すとして。

兩人同聲

かの枯骨を野に遺棄し

戰場より歸る凱旋の將軍も、

運命の本質に向ひては

破れやすき楯をもたざる者幾人！

かの勝利を占めし戦ひも

畢竟罰と怨恨を捕縛して歸り、

かれ『災厄』をしてその所得を、

刑罰の夜にうたれざりし所得を、

數へしむるに過ぎざらん。

驕るも驕らざるも

遂に墓なる小玉國のあるじとなり、

星運せいゆんの定命じやうめい免かるべからざれば、

之を心せざる輩やからの凱旋は唯苦たがからんのみ。

許すを知らでひとへに肉薄せんは、

おのれに返る弱き返報の鞭をあげ、

神の甲冑にはむかひつゝ、

愚かなる特權を求むるに似たり。

知り、知るが故に、

暗中の紛争をさけ、

精勤の手をさゝげ、

斷乎ことごとたる精神を失はで

而して戦ひに打克たんか、

かくぞや彼や一旦の言ことばに反かず、

人の間あひだに譽ほまれをもたらずの人、

さなくば彼が統率も

遂に背信のそしりあらん。

第五景

一八六五年四月のある夕。アホマトックスに近い農家。リンカーンの許に北軍の總司令官たるグラント將軍、副官マリンスズ大尉と共に、卓によつてゐる。彼はシガーを吹かしながら、少し間まを置いてはしばし、ホイスキイの杯つに注つぎたす。當番下士デニスは隅の卓テーブルについてもものを書いてゐる。

エブラハム・リンカーン

グラント 「彼の前に置いてある大きな懐中時計を見ながら」一時間半。もうミイドから何か来る時刻だ。……デニス。

デニス 「テーブルのところへ来て」はい。

グラント 「此書札をテムブルマン大尉のところへ持つて行け。それからウエスト大佐に、第二十三聯隊はまだ戦闘中であるか、聞いて来い。料理番に十時が打つたからスウブを持つて来いと命じてくれ。昨日のは冷たかつたと云へ。」

デニス はい、承知いたしました。「彼はゆく。」

グラント その地圖をかしてくれ、マリンス。

マリンスは自分が切りに研究してゐた地圖を渡す。

「黙つてそれを調べた後」さうだ、何等疑ひはない。ミイドが寝ぼければ兎に角、只時の問題だ。リイは偉い男だが、あれをきり抜けるわけにはゆくまい。

指で地圖に輪をつくりながら。

マリンス 「又地圖を取り」之で結着になるべき筈です。

グラント さうだ。リイが降参すれば、荷物をからげて家へ歸へれるぞ。

マリンス 素的、將軍、素晴らしい事でございます。又家へ歸りますのは。

グラント 素的、さうだよ、君。

マリンス 之は失禮を申上げました。

グラント いや、マリンス、君の云ふ通りぢや。俺の子供も來週は學校へ行くんだが、あいつを連れて行つて、いろ／＼取極めてやれるかも知れない。

デニス歸る。

デニス ウエスト大佐は申されます、さやうです、今や半時間ばかりと。料理番が申します、洵に申譯がございません。粗忽でございましたと。

グラント 粗忽は臺所だけでやれと云つてくれ。

デニス 承知いたしました。

彼はもとの席へ歸る。

グラント 「彼の書類を調べながら」あの小銃は此午後到着しただらうね？

エブラハム・リンカーン

マリンス 到着いたしました。

他の當番下士入る。

當番下士 リンカーンさんが御來着でございました。只今中庭なかにはに居られます。

グラント よし、今ゆく。「當番下士去る。グラントは立上り、戸口のところへ横ぎる。と、そこにリンカーンとヘイが現はれる。リンカーンは長靴を穿き、幾多の戦役を見て来た高帽を被ぶり、グラントと握手し、マリンスの擧手の禮を受ける」一向に思ひ設けませんでした。

リンカーン でせう。だが、離れてゐるわけにゆかなかつたから。どうですな、模様は？
皆々席につく。

グラント ミイドは一時間半前に報告しましたが、リイは今や約二哩に包圍されて居り、その包圍が次第に狭ばまつてゐます。

リンカーン それではほど落着といふわけだね、え？

グラント その二哩に何か間違ひが起れば兎も角もです。私は今か今かとミイドの報告を待つて居ります。

リンカーン これ以上戦闘があらうかね？

グラント 恐らく此夜中戦闘はつゞきませう、激戦かどうかは問題にして。しかし、明方あしたになれば、リイも望みのないことを悟るに相違ありません。

一當番下士 「はいりながら」傳令使でございます。

グラント よし。

當番下士行く。戰場から来た若い士官がはいる。彼は擧手の禮をし、一通の書信をグラントに渡す。

士官 ミイド大將から参りました。

グラント 「それを受取り」有難う。「披いて讀む」君は待たなくてよろしい。「士官は擧手の禮をして行く」さうだ、輪が出来上つた。ミイドは敵に十時間の猶豫を與へる。八時と記してあるから、朝の六時です。

彼はその通信をリンカーンに渡す。

リンカーン 我々は情ぶかなくなつてはならん。ポップ・リイは壯快な男だつた。

エブラハム・リンカーン

グラント 「一通の書類をとり」此名簿を御一覽下さい。多分之れが最後かと思ひます。

リンカーン 「その書ものをとり」此仕事中の怖ろしい方面だ、グラント。銃刑は？

グラント 一人。

リンカーン 莫迦な、グラント、そんなことをしないで、なぜやれないのか？ いや、いや
無論、致方がない！ 誰だね？

グラント マリンズ。

マリンズ 「二冊の書物を開き」ウイラム・スコットでございます。少し困難な事件でありまして。
リンカーン なんだ？

マリンズ 彼は強行進軍を終りました後、ある病友を助けるため、みづから進んで二重の守衛
をいたしました。守衛中彼は眠りました。

彼は書物を閉ぢる。

グラント 私もどうかして彼を助けてやりたいと熱望いたしました。しかし、何とも致方がござ
いけません。危機一髪の重大な時に當り、まことに重大な地點でありましたので。

リンカーン いつそんなことに？

マリンズ 明日、夜明け方でございます。

リンカーン 銃殺されて、其男のためになるといふわけが、私には解らん。どこに居るね？

マリンズ 此家に居ります。

リンカーン 行つて逢つてもよろしいか？

グラント どこだ？

マリンズ 納屋だと存じます。

グラント デニス。

デニス 「彼の卓より来り」は。

グラント スコットを茲へ連れて来て貰へ。「デニス去る」私はウエスト大佐に逢ふ必要がある。

マリンズ、あの數字の準備ができたかどうか、テムブルマンに訊ねてくれ。

グラント去る、マリンズそのあとに従ふ。

リンカーン 君は？ へい。

エブラハム・リンカーン

ヘイ行く。秘時、リンカーンはマリンスの讀んでゐた書物を取上げ、之を調査する。ナグスコットが護衛せられて連れこまれる。二十歳の一少年である。

リンカーン 「護衛に向ひ」有難う、外面で待つてゐて下さい。「衛兵等は擧手の禮をして退く」君がウイルヤム・スコットか？

スコット はい。

リンカーン わしが誰だか知つてゐるだらうね？

スコット はい。

リンカーン 將軍の話によると、君は軍法會議にまはされたさうだな。

スコット はい。

リンカーン 守衛中眠つたのか？

スコット はい。

リンカーン 洵に重大な罪科だ。

スコット 承知して居ります。

リンカーン どうしたんだね。

スコット 「間を置いて」私は目を覺して居れませんでした。

リンカーン 君は長距離行軍をしたのだつたね。

スコット はい、二十三哩。

リンカーン 君は二重の守衛をしてゐたのだね？

スコット はい。

リンカーン 誰が命じたね？

スコット はい、私から申出しました。

リンカーン なぜ？

スコット イノック・ホワイト——彼は病氣でした。私共は同じ村から來ました。

リンカーン どこだね、それは？

スコット ヴァモントです。

リンカーン 君はその者だね。

スコット はい。私の……私共はあそこに田地を持つて居ります。

リンカーン 誰が持つてゐる？

スコット 私の母です。私は母の寫眞を持つてゐます。

彼は衣箱からそれを取出す。

リンカーン 「それを受取り」君の母はこのことを知つてゐるかね？

スコット お願ひでございます、どうぞそれ許りは！

リンカーン あゝ、いゝとも、いゝとも、お前は銃殺されはせん。

スコット 「間を置いて」銃殺されませんと！

リンカーン さうだ、さうだ。

スコット 銃——殺——され——ません！

彼はたうとうたまらなくなつて嘔り泣く。

リンカーン 「立上つて彼の傍に行き」さあ、さあ。お前がね、目を覺まして居られなかつたと私に云つた時、お前のいふことを私は信ずる。私はお前を信用して、お前の聯隊へ送り返へし

てあげる。

彼は自席に歸る。

スコット いつ歸れますか？

リンカーン あすは歸れる。戦争はお仕舞ひになるだらうがね。

スコット まだ終りませんか？

リンカーン まだ全くは終らない。

スコット どうぞ、今夜歸へして下さい——今夜歸へして下さい。

リンカーン よろしい。「彼は書く」ミイド大將の居所を知つてゐるかね？

スコット 存じません。

リンカーン 護衛の一人に茲へ來て貰つて下さい。

スコットは衛兵の一人を呼込む。

リンカーン 君の捕虜は放免じや。すぐ此手紙と一緒に、ミイド大將のところへ、此人を連れて行つて下さい。

彼は衛兵に一通の手紙を渡す。

兵士 承知いたしました。

スコット 有難うございます。

彼は擧手の禮をし、兵卒と共に出てゆく。

リンカーン ヘイ。

ヘイ 「外面で」はい。

彼ははいる。

リンカーン 何時だね？

ヘイ 「卓上の時計を見て」恰度九時半です。

リンカーン わしは少し茲で眠よう。君も横になつたらどうだね。何か報知があつたら、起こして呉れるだらうよ。

リンカーンは二つの椅子の上に體を包み込んで横になる。ヘイはベンチの上に之を見做ふ。二三秒の後グラントが戸口に現はれるが、此事のさまを見て、靜に煙燭を消し、出てゆく。

幕が下る。

第一の史家

星の下、結末きたる、

野の上、南軍の双折る、

争ひありしところ、協和あるべく、

桎梏ありしところ、自由あらん。

言は述べらる……

夜は過ぐ。

幕は同じ光景に上がる、リンカーンとヘイとはまだ眠込んでゐる。薄明の光が室に漲る。當番下

エブラハム・リンカーン

士がほけの立つてゐるコーヒー茶碗と丸パン二三個を持つてはいる。リンカーンが目覚ます。

リンカーン お早う。

當番下士 お早うございます。

リンカーン 「コーヒーと丸パンを受取り」有難う。

當番下士はヘイの方に向くが、眠込んでゐるので躊躇する。

リンカーン ヘイ。「ならぶ」ヘイ。

ヘイ 「喫驚して起上り」ハロウ！ 何だ、畜生ツ？ いや、これは失禮いたしました。

リンカーン いゝとも、いゝとも。コーヒーをお上り。

ヘイ 有難うございます。

彼はコーヒーと丸パンを受取る。當番下士去る。

リンカーン 熟睡したかね、ヘイ？

ヘイ 少し體が曲つたやうな気がします。私はすぐ眠込んだと見えます。

リンカーン 何時か？

ヘイ 「時計を見て」六時です。

グラントがはいる。

グラント お早うございます。大統領。お早う、ヘイ。

リンカーン お早う、將軍。

ヘイ お早うございます。

グラント 昨晚、あなた方をそつとして置きました。只今ミイドから使者が参りました。リイは四時に休戦を申込みました。

リンカーン 「沈黙の後」四年の間、此生命は、只此瞬間の希望に生きてゐた。愈々來てみると、不思議にも簡單だ。グラント、君は實際國家に偉いおつとめをした。君が私の仕事をやれさうにしてくれたのだ。「彼の手を取り」有難う。

グラント 私が失敗したとしたら、その過失はあなたの過失ではなかつたでせう。私が成功したのは、あなたが私を信じて下されたからです。

リンカーン リイはどこに？

グラント こちらへ参ります。ミイドは今にも到着いたしませう。

リンカーン どこでリイは待つのかな？

グラント 一室が準備してあります。お逢ひなされますか？

リンカーン いや、いや。グラント。それは君の役目じや。君は政治上の事は云ひはすまい。

寛大にな、しかし、そんなことは云ふ必要はない。

グラント 「一枚の書類を書出し」私の提出する条件は之れです。

リンカーン 「読みながら」さうだ、さうだ。君の名譽になる条件だ。

彼はその手紙を卓上に置く。

一當番下士入る。

當番下士 ミイド大將がおいででございます。

グラント こちらへお通ししろ。

當番下士 はい。

彼はゆく。

グラント 私は青年時代には、ロバート・リイからいろ／＼と學ぶところがありました。彼は吾

吾の大抵のものよりも立派な人物です。此仕事は随分と辛らからうと察します。

リンカーン 幸に勇ましい紳士のすることなのでな、グラント。「ミイド大將と其副官ソーン大尉

とはいる。ミイドは擧手の禮をする」大慶至極、ミイド。うまくやつて呉れました。

ミイド 有難うございます。

グラント あれからまだ戦闘があつたかね？

ミイド 一二時間はかなり激戦でした。

グラント リイはどれ位ゐるかね？

ミイド 僅か二三分、と思ひます。

グラント 君は條件のことは何も云はなかつただらうね？

ミイヤ いや。

リンカーン スコット少年は君のところへ行きましたか？

ミイド 参りました。すぐ戦線に立つて、殺されました、さうだね、ソーン！

エブラハム・リンカーン

ソーン 左様でございます。

リンカーン 殺された？ グラント、妙な世界だね、此世界は。

ミイド 叛軍に對し、何か宣言が發布せられませうか？

グラント 私は――

リンカーン いや、いや。私は絞殺したり、銃殺したりすることは一切したくない。あの人達を、あの一番兇惡な者にも。彼等を國外へ放逐する、門を開ける、門を下ろす、彼等を威して追拂ふ。スー！（彼はその兩腕を大きく擴げる）左様なら、グラント。できるだけ早くオシントンに報告して下さい。「彼はグラントと握手する」左様なら、皆さん。おいで、へい。

ミイドは擧手の禮をする。リンカーンはへいを引つれて去る。

グラント リイは誰と來るね？

ミイド 參謀を只一人連れ来ます。

グラント 君、マリンスに逢つてくれませんか、ソーン？ そしてリイ將軍が到着せられたら、すぐ知らせて下さい。

ソーン かしこまりました。

彼はゆく。

グラント さて、ミイド、大仕事だった。

ミイド さうです。

グラント 吾々は勇氣と決斷とがあつたんだ。それから知恵もあつたのだ、一大武將を倒すだけのね。それだけは憚からず誰にでも云ふ。しかし、ミイド、戦ふべき大義名分をはつきりと吾々に掴ませてくれたのはエブラハム・リンカーンだ。あんな人物の手の中に捷利が與へられたと思ふと、大に人心を昌んならしめる。一杯どうだ、ミイド？ 「ホイスキーを注ぎながら」飲まん？ 「自分は飲みながら」ね、ミイド、馬鹿な奴がゐて、次の大統領選舉に俺を起たせ、リンカーンと競争させやうと云つてゐる。俺もかなり虚榮心を覺えて來たが、それ程馬鹿じゃない。マリンス入る。

マリンス リイ將軍の御到着でございます。

グラント ミイド、リイ將軍は茲で面會するの光榮を許して下さいさうだらうか？ 「ミイドは擧手エブラハム・リンカーン

の禮をして去る」畜生ツ、俺の帽子はどこだ、マリンス？ それから劍は？

マリンス 茲にございます。

マリンスは彼に代つてその品々を取つてやる。

ミイドとソーンとはいり、戸口に於て直立不動の姿勢を取る。南部聯邦軍總司令官ロバート・リイが參謀一人を従へてはいる。今が今まで經て來た危急存亡の心配の日が、リイの顔にありくと讀まれる。しかし彼の充分に手入れのして、一絲亂れない身の廻りが、グラントの甚だぞんざいな風采と際立つて對照する。兩司令官は面と面と見あはす。グラントが擧手の禮をする。リイが應へる。

グラント 閣下、好敵手を誇るの機會をあなたは私に與へて下された。

リイ 全力を盡しました。私はその敗北を承認する。

グラント あなたの御訪問は――

リイ いかなる條件のもとに降伏を許して下さるか、それを伺ふため。さうです。

グラント 「卓上の紙片をとり、之をリイに渡しながら」簡單です。苛酷だとお考へ下さらねば幸いです。

リイ 「條件を讀了し」閣下は洵に寛大です。唯一ヶ條の審査を願へないでせうか？

グラント 若し考慮の餘地あらば、一個の特權と存じます。

リイ わが士官にその馬を保留することの許可。それこそ恵みです。わが騎兵の馬も又彼等みづからの所有物です。

グラント 諒解しました。馬は田畑たはたで必要でありませう。同意いたします。

リイ 感謝いたします。わが國人を和解せしめる上に於て、非常に有効でありませう。あなたの條件を受容いたします。

彼は劍をはずし、グラントに差出す。

グラント いや、いや。それをも含めるべき筈でした。その帯ばるべきところは他にはありません。どうぞ、是非。

リイは劍をもとへ戻す。グラントは手を差し伸べる。リイはそれを握る。兩人は擧手の禮をし、リイは去らんとして振向く。

幕が下りる。

二人の史家

夜半風起り

ばらの精華は去る。

そは勤めき、世の歡喜となりぬ、

雨ふり、

夏日てらし、

露・蕾を洗ひき、

感謝と讚美、

吾等が血なるかのばら。

かくて夜のまに、

風起り、ばらは落つ、
焰なりしその心は摧けぬ、
五月と共に行きし榮光を
いかんぞ六月語り得んや？
その日に先だち
凋みて眠りし美、
いかんぞ一年を通じて
この美を保留し得ん。

かずあるばら。 おゝ、人の心。

勇氣、その盛時には

眞理を求めしが

時と共謀して謀叛を初めき、

暗く、嫉妬ぶかき地上のいたみに
 花さかんとて……
 風吹く、この頭腦も
 その母なりし土なり。

目撃者は何とか叫ばん、
 唯一人、想像の眼もて

顛伏されし暗を

寂しく見し人は？

聞け、長き日蝕の後、

賢き言は来る——

風吹き

豫言の唇黙す。

第六景

一八六五年四月十四日の夕。とある劇場の狭き休憩室。遠方の側に三個の私用ボックス開く戸口がある。数秒間沈黙。それから喝采の響きが向ふの観客席から起る。開席の戸があく。中央の席にリンカーンとスタントン、リンカーン夫人、今一人の婦人、及び一士官が一緒に話してゐるのが見える。他の開席にゐた人達が、休憩室へはいつてくる。室には既に小さな群が幾組か、いろいろの方角から集つて来て、立つたり坐つたりして忙しく話してゐる。

一婦人 非常に面白いのねい、さう思はなくつて？

其伴侶 えい、全く。ですが人生に眞實だとは云へないね、どうでせう？

他婦人 あの髪の毛の黒い娘、ちよいと上手でなくつて？ 何といふ名でせう？

一紳士 「番附を見ながら」 エレナ・クラウンです。

他紳士 怖ろしい隙間風が来るではないか？ 頭を縮めてるので、凝りが来さうだ。

其妻 襟卷をしてはどう？

紳士 變な恰好になるからね。

他婦人 大統領は今晚大層幸福らしい御様子なこと、さうではない？

他の一人 無理もないでせう？ 御得意に相違ないですもの。

一人の青年が、黒づくめの服装をし、人々の間をくぐり、人目を忍ぶやうに、リンカーンの席をちよいと覗きこみ、そして消える。これがジョン・ウィルクス・ブースだ。

一婦人 「他の婦人に挨拶しながら」あゝ、ベニントンの奥さん。御主人はいつお歸りの御豫定ですの？

彼等はあちらへ移つてゆく。スワザンが外套や巻卷の類を抱へてはいる。彼女は席に行き、リンカーン夫人に話かける。それから離れて、群衆よりも別のところに、腰をかけて待つ。

青年 僕は自分で舞臺に立たうかと思つてゐます。友達の説によると、僕はすばぬけて良いといふことだ。たゞ僕の健康が許しさうもないので。

少女 それあ屹度樂な生活に違ひないわ。芝居をしてゐればいゝのだもの——樂すぎるわ。

『リンカーン』といふ叫聲が觀衆席の間から起る。それに續いて『大統領』演説『エブラハム・リン

カーン』『おやどのエブラハム』など口々に叫ぶ。休憩室の會話ははたと止んで、話してゐたものも聞き耳立てる。數秒の後、リンカーンの起立するのが見える。突然大喝采が湧く。休憩室にゐた人達は、閣席の戸口のまはりに群がる。リンカーンは片手をさし上げる。急に靜まる。

リンカーン 友人諸君、私はあなた方の此御好意のしるしをみ、感激いたします、深く感激いたします。四年間の、暗澹たる、困難の年を経て、吾々の志した大目的を、吾々は成就しました。將軍ライが、將軍グラントに、降参いたしましたがため、戰場にある南部聯邦軍は、只一個になりました。結局は、近く、又確實であります。「喝采」私は只今申上ぐべきことは、殆どありません。私は、いろ／＼の事件を、みづから支配して來たとは申しませんが、却て、いろ／＼の事件が、私を支配して來たことを、率直に、白状いたします。しかしながら、事件が、私の前に現はれるごとに、私は、常に一個の信仰をもつて、之を見て來ました。吾々はアメリカ合衆聯盟を擁護して來た、そして吾々は、一個の大なる罪惡を廢止してしまつた。「喝采」和解の業、今混亂のあるところに、秩序を置くの業、正義であり、同時に、情深い協定を齎らすの業、而して、再び和衷合衆せる此國の生命をば、好意と寛大の幸福なる通路に

向つて指導するの業、それ等はすべて吾々の知恵、すべて吾々の忠誠を要望することであり
ます。私が此大事業に於て、幾分にも役立ち得るかも知れぬといふことは、私の一生の、
最も誇りとする希望であります。「喝采」それがなんであらうとも、私が今日までに受けた、
あなた方のあらゆる親切、及び忍耐に向つては、報酬としては殆ど數ふるに足らぬものであ
ります。何人に向つても悪意を抱かず、すべての人に向つて慈悲の心をもち、此國家をして、
神様のもとに、自由の新らしい生誕を得せしめること、これこそ吾々の以て決意すべきこと
であります。かくしてかの、民衆の爲めに、民衆に由つて作り、民衆のものなる政府は、地
上から決して絶滅することはないであらう。

喝采の大きな響きがある。それが消えると、一人の給仕が、休憩室を通過し、「最後の幕、皆さん」
と大聲に呼立てる。人々は四散して、^{ボックス} 閣席の戸が閉される。スウザンは一人残り、沈黙がある。
數秒の後、ブリスが現はれる。彼はスウザンを見守り、その凝視が彼から離れるのを見ます。
彼は中央の^{ボックス} 閣席に忍びより、長上衣の下にしてゐた片手を出す。その手は短銃を握んでゐる。身
の均合を取つて、彼はすばやく戸を開ける、發砲する、又戸を急に閉ぢて、逃げ失せる。又戸が

十字字にあいて、士官が追かけて来る。席、なかでは、リンカーン夫人が、スタントンの抱へて
ゐる^{せつと} 眞人の傍に跪いてゐる。醫者が休憩室を走りぬけて、^{ボックス} 閣席に飛込む。劇場内には完全な沈黙
がある。戸が又閉される。

スーザン 「^{ボックス} 閣席の戸口に走つて行つた彼女は、そこに跪いて、嘔泣いてゐる」 旦那、旦那！ いえ、
いえ、いけません、私の旦那！

他の^{ボックス} 閣席の戸が開いて、席にゐた人達が他の人達と一緒に、恐怖に打たれた小さい群りをなして、
休憩室に集つてゐた。それから中央の戸が開いて、スタントンが出て來、あとを閉める。

スタントン 今や彼は百代の人となつた。

第一の史家

事件はすぎゆく。たま〜

災厄は偶發てふ盲目なる一掃もて

事をうち摧く、

これ吾等が物真似の趣旨なりき、
同族の方々、
人生そのものに似て、
夢のごと、事は群がれども。

第二の史家

しかはあれど、吾等謂へりし如く、
到るところ事件を凌駕して
一人の性格ありき。
永續するはこれ、みづから支配せよと、
常に人に送らるゝ徴證はこれ。

幕下りる。

「海外文學新選」趣旨

◆近代文學の未だ紹介せられざ
る名篇と共に時代に先驅する最
新の作品を網羅し、パンフレッ
ト型の廉價版として公にする。
◆全然原語より移して一切の重
譯を避けるは勿論、編纂者に於
いて十分の信用を置き得可き譯
と認められたもののみを収める。
◆第一期刊行として既に決定せ
るもの百五十冊。毎月約三冊を
隨時出版する。

第一期百五十冊發行

大正十三年五月十二日印刷

大正十三年五月十七日發行

エブラハム・リンカーン——價六拾錢

翻譯者 横山有策

東京市牛込區矢來町三番地

發行者 佐藤義亮

東京市牛込區矢來町三番地

發行所 新潮社

電話牛込

八八八八
〇〇〇〇
九八七六

振替東京一七四二番

東京市小石川區西江戸川町

印刷所

富士印刷株式會社

電話小石川五九二番

海外文學新選

(1) 死刑をくふ女 (小説)

ブラスコイバニエス 永田 寛定氏譯
熱帯の焔の如き情熱と、南海の怒濤の如き氣魄とを以て現下の世界文壇に雄視しつゝある西班牙の文豪の作中から『死刑をくふ女』『キノマの老婆』『落日』『衣掛人形』等、その特色の最も鮮かなるもの七篇を収めた。

(2) チヤッテルトン (戯曲)

アルフレッド・ウイニイ 小林 龍雄氏譯
清高なる使命を汚濁の世に齎し、徒らに周囲の無理解に苦しめらるゝ一詩人に配するに、闇に咲く花にも似たる一人の少女を以てし、嚴肅なる宗教味に哀婉の情趣をあざなへる名篇である。(作者の評傳を附録とした。)

(3) イスカリオテのユダ (小説)

アンドレ・エフ 米川 正夫氏譯
キリストを賣れる叛逆者ユダを、地下に起して、その冤を慰へしめたもの。深遠なる人生的意義を寓した、頗々氣品の高き象徴藝術である。添ふるに、美しき戀愛悲劇『老いたる城主』と題する一幕物を以てした。

(4) 勝利者と敗北者 (戯曲)

ゴルズワージー 山田 松太郎氏譯
現下世界劇壇の第一人者たるゴルズワージーの寶石の如き三小戯曲の集。心理解剖の精妙を極めた傑作『勝利者と敗北者』の外、『小夢曲』、『小男』(横山有策氏譯)、何れも一幕物の典型的作品と稱すべきものである。

(5) 影の彌撒 (小説)

アナトール・フランス 山内 義雄氏譯
フランス氏の短篇傑作集。近代象徴詩派の翹楚グルレヌエが、或時は神の如く清からんとし、或時は肉の歡樂に陶酔し盡くさんとする多面多彩の風手を傳へたる『ゲエスタス』以下數篇。此文豪會心の作のみである。

(6) ハヱラリンカーン (戯曲)

ドリントクウオター 横山 有策氏譯
若き英國劇壇人氣第一の作家の出世作。米國の産んだ最大最善の政治家が赤裸の姿を看よ。一卷第六景、大きな愛に動く偉人の涙と力とは何人をも動かさすには置かない。政治も茲に至れば宗教であり藝術である。

(7) 彼女は眠れり (小説)

ドワイモフ 梅田 寛氏譯
男女の微妙な心理の交渉を描ける中に、静かな、重々しい、謎の如き彼れ独自の諷刺を投げたもの。みで、實際と空想、理想と現實との矛盾から生ずる、人生の苦しい、みだれがちな聲音は、どの作からも響いて来る。

海外文學新選

刊 續

小一難去つて一難來る ルードウイッヒ著
小盲 人國その他 エチ・ジー・ウエルズ著
石井 眞峰氏譯
以下續々發行——一冊六拾錢、送料一冊六錢

ストリンドベルク 戯曲全集 □□□

出づ！ 天下の渴望久しかりし此の大文豪の大全集愈々出づ。各篇獨逸シエリシカ譯本により、一字一句に泣血の苦心を拂へる稀有の名譯也。

■戯曲 **ダマスクスへ** 楠山正雄氏譯 參圓五拾錢 送料拾六錢

■戯曲 **自然主義劇と十一幕の** 楠山正雄氏譯 參圓五拾錢 送料拾六錢

■戯曲 **祝祭曲と小劇場曲** 楠山正雄氏譯 參圓五拾錢 送料拾六錢

■自叙傳 (1) **女中の子** 福田久道氏譯 參圓五拾錢 送料拾六錢

■自叙傳 (2) **或る魂の發展** 秦 豊吉氏譯 (近刊)

■自叙傳 (3) **痴人の告白** 三井光彌氏譯 價參圓 送料拾貳錢

近代劇選集

楠山正雄氏譯

【第一卷】沈鐘(ハウアトマン)▼心願の國(イエイツ)▼月の出(グレゴリイ)▼海へ乗り入る者(シンケ)▼かもめ(チエホフ)▼エレクトラ(ホフマンスタ)▲群盲(メーテルリンク)▼青い鳥
【第二卷】シラノ・ド・ベルジュラック(ロスタン)▼サロメ(ワイルド)▼地獄(ヴェテキンド)▼パンドラの手籠(同)▼運命の人(シヨ)▼シエザとクレオパトラ(同)
【第三卷】幽霊(イブセン)▼エリエ嬢(ストリンドベルク)▼債鬼(同)▼火あそび(同)▼アナトオル(シエニツレル)

各冊參圓◆送料各料拾貳錢
四六總布製各八百頁

■シング 戯曲全集 松村みね子氏著

四六大判四百頁、特製——價貳圓、郵送料拾貳錢

■グレゴリイ 夫戯曲集 近藤孝太郎氏譯

四六大判四百頁、特製——價貳圓、郵送料拾貳錢

■シヨウ 一幕物全集 市川又彦氏譯

新四六判五百五十頁、最上製——價貳圓五拾錢、送料拾貳錢

モオパッサン著 廣津和郎氏譯

■小説 美貌の友(ミイラ)

新四六判總洋布製 貳圓五拾錢
五百六十頁最美本 送料拾貳錢

何人をも魅せずんば止まざる美貌と若干の才氣との所有者なる一人の男が、處女を弄び人妻を犯し放縱の限りを盡くせる性的生活の間に、着々社會上に歩を占めて遂に富と權勢とに傲るの勝利者となれる徑路を描いた長篇小説で、至る所麗麗を極めた性的情景の描寫に充ち、性慾を人生のすべてと観する作者の代表的傑作である。譯者新たに佛の原文と對照改訂すると共に、前版省略箇所を全部復活して新に公にされた。

ド・レニエ著 永井荷風氏序 堀口大學氏譯

■小説 燃え上る青春

新四六判總洋布製 定價貳圓
五百頁箱入美本 送料拾錢

永井荷風氏その序中に於て曰く、余をして現時海外著名の文學者の中、最も余の心酔するものを挙げしめんか、余は先づ指をレニエに風し……云々と。本篇は即ち此の現代佛蘭西最大の小説家にして詩人たるレニエの全作十數卷のうちの最傑作で、華麗な巴里社交界を背景として燃ゆるが如き戀愛を描けるもの。卷を開けば至る所、濃艶の情景に接することを得よう。譯者は語に明かに文に熟せる高踏耽美の詩人である。



175
130



Kanigayo
Onianko
Shinakee

18.9.6

5

終

七